

令和5年度

登別の教育

登別市教育委員会

令和5年10月作成

目 次

登別市の概要

位置及び面積、市名の由来、登別市の沿革	1
登別市の市章、登別市の花・花木・木、登別市民憲章	2
国際観光レクリエーション都市宣言	2

教育行政

教育委員会	3
歴代教育委員	4
歴代教育委員長・歴代教育長	5
登別市の教育のあゆみ	6
小・中学校児童生徒数の推移	1 5
小・中学校の学校数・学級数等の推移	1 6
登別市立小・中学校	1 8
登別市内の高等学校、専門学校	3 1
社会教育施設・図書館	3 4
学校給食センター	4 0
各種審議会委員等	4 2
のぼりべつの文化財	4 4
登別市小・中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌	5 6
室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）設立請願書	5 9

登別市の概要

位置及び面積

登別市は、北海道の南西部に位置し、形状はほぼひし形をなしている。
南は太平洋に面し、その海岸線はほぼ一直線である。東は登別漁港、クッタラ湖付近で白老町と接し、北はオロフレ峠、来馬岳付近で壮瞥町と接している。
さらに、西は鷺別岬から鷺別岳にかけて室蘭市と伊達市に接している。
東経 141度11分22秒 北緯 42度20分59秒
面積 212.21平方キロメートル
姉妹都市 宮城県白石市（昭和58年10月）、
神奈川県海老名市（平成27年5月）
交流都市トライアングル宣言（平成23年4月）
宮城県白石市・神奈川県海老名市
姉妹温泉 群馬県草津温泉（昭和47年6月）
人口（令和5年4月末日現在）
44,874人（男 21,432人、女 23,442人）
世帯数 24,107世帯

市名の由来

登別市の名前は、アイヌ語の「ヌプルペツ」（色の濃い川）に由来する。
（温泉から流れ出る川なので、水が暗く濁っていることから名付けられた。）

登別市の沿革

明治2年に幌別郡の支配を命じられた仙台藩旧白石城主一片倉小十郎邦憲が中心となって、明治3年7月以降に76戸270人が移住し、先住のアイヌ民族と協力した生活が始まった。

この頃の登別は、幸いなことに、隣接する室蘭では鉄鋼産業が発展し、明治25年に夕張から室蘭に石炭を運ぶ北海道炭砒鉄道が敷かれ、幌別、登別の停車場が開業し、街としての発展の基礎が出来た。そして、登別温泉と登別駅との間を結ぶ交通の便として客馬車、次いで軽便鉄道、電車が走り、昭和に入るとバスが走った。登別温泉は徐々に観光拠点として整備が進んでいったが、その他は急速な発展を見ることがなかった。

だが、第2次世界大戦に入るや室蘭の鉄鋼産業は急速に活発化し、昭和15年以降、現在の富士町に日鉄社宅1,450戸が建設され、温泉の街に工業都市・室蘭市のベッドタウンとしての要素も加わって、更に飛躍する契機となった。それは同時に本市が室蘭の工業と構造的な結びつきによって、後年室蘭に隣接する鷺別地区に住宅が増大し、両地区が将来的には完全に連担する要因となった。

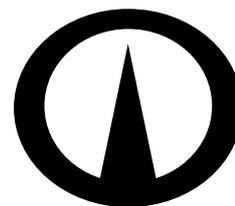
戦後、札内は、畑作から酪農へと転換していった。こうして、昭和26年幌別町として町制をし、街に発展し、更に昭和36年に登別町として町名を改正し、昭和45年には待望の市制が施行された。

市制施行当時は、室蘭工業圏を支える住宅地として人口の急速な増加が見られ、教育施設をはじめ、生活環境や公共施設の整備が急務とされた時代であったが、現在登別市は、国際観光レクリエーション宣言の街として、美しい自然環境を守り、真に豊かで快適な「まちづくり」を目指し、道内有数の観光地として発展している。

更にまちづくりのキャッチフレーズを「人が輝き、まちがときめく、ふれあい交流都市のぼりべつ」と掲げ、市民の思い描く夢を将来像として、登別ゆめまち構想に反映させた新しい総合計画を基に、まちづくりの理念の実現に向けた取り組みを進めている。

登別市の市章

力強く伸びる市の将来を表現したもので、登別の頭文字「の」を単純かつ明瞭化し、円内左右の空間は市勢伸長の二大基盤である鉱業、観光の意義を含め、中心の長三角形は限りなく躍進する登別市の発展を希ったものである。



登別市の
花・花木・木

[登別の花]
キク

[登別の花木]
ツツジ

[登別の木]
プラタナス



登別市民憲章

わたしたちは 古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の市民です
ここに わたしたちの心がまえを定めてよりよいまちをつくることに
努めます

- 1 心身をきたえよく働いて 活気あふれる豊かなまちをつくり
ましょう
- 2 親切をつくし きまりを守って 明るくすみよいまちをつくり
ましょう
- 3 自然を愛し 力をあわせて緑と空気と太陽のいっぱいある
きれいなまちをつくりましょう
- 4 未来をつくる青少年の 健全な夢の育つまちをつくりましょう
- 5 教養をつみ 視野を広げて 平和で文化のかおり高いまちを
つくりましょう

(一昭和43年9月20日制定一)

国際観光レク
リレーション
都市宣言

美しい自然と無限の温泉に恵まれた登別市は、北海道観光の宝です。
生活を楽しみ、心身を健やかに、明日への活力を求め、世界の人々
が相い集う街、理想郷登別市を目指して、ここに「国際観光レク
レーション都市」を宣言します。 (一昭和61年3月24日決議一)

1 教育行政

1 教育委員会



教育長

安宅錦也

令和4年10月23日就任



委員（教育長職務代理者）

赤井秀輝

平成24年10月7日就任



委員

堅田裕

平成26年10月1日就任



委員

上村正人

令和元年10月1日就任



委員

木村雅美

令和元年12月19日就任

2 歴代教育委員

氏 名	自	至	備 考
赤坂 準一	S27.10.1	S37.12.31	公選委員 (31.10.1 任命)
藤平 喜三郎	S27.10.1	S39.11.5	〃
花輪 高弘	S27.10.1	S31.9.30	公選委員
武安 良助	S27.10.1	S31.9.30	〃
平畠 文次郎	S27.10.1	S30.9.30	議会選出委員
麻生 外次郎	S30.10.1	S31.9.30	〃
上田 邦男	S31.10.1	S41.6.8	任命制による委員 (以下同じ)
勝間 久太郎	S31.10.1	S38.9.30	
中川原 豊	S31.10.1	S39.9.30	
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	
若狭 徳兵衛	S38.11.12	S42.11.11	
柳沼 高杉	S39.4.5	S44.9.30	
筒井 敬祐	S39.10.1	S42.4.18	
宮崎 徳治	S38.11.12	S41.9.30	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
国分 恒次	S41.10.1	S45.9.30	
高橋 利市	S42.5.10	S43.9.30	
内藤 秀吉	S42.11.15	S58.9.30	
須賀 武夫	S43.10.1	S63.9.30	
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	
桜井 弘	S45.10.1	S53.9.30	
川島 芳信	S46.10.1	S55.9.30	
吉原 暲	S53.10.1	S61.9.30	
大笹 繁	S53.10.1	S56.9.30	
阿部 隆雄	S55.10.1	S59.9.30	
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	
中山 隆二郎	S58.10.1	H3.9.30	
大野 吉三郎	S59.10.1	H4.10.6	
堅田 勇	S61.10.1	H10.9.30	
岩倉 志子	S63.10.7	H5.9.30	
後藤 八良	S63.10.12	H12.10.11	
峰田 弘道	H3.10.1	H17.6.21	
細川 正昭	H4.10.7	H11.8.31	
中山 節子	H5.10.1	H13.3.31	
志賀 辰哉	H10.10.1	H14.10.24	
斉藤 亨	H11.9.25	H16.8.5	
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	
垣内 登紀子	H13.4.1	R元.11.3	
武田 博	H14.2.20	H28.10.22	
千葉 泰二	H14.12.18	H26.9.30	
松村 昌孝	H16.10.7	H24.10.6	
森口 達	H17.9.29	R元.9.30	
赤井 秀輝	H24.10.7		
堅田 裕	H26.10.1		
上村 正人	R元.10.1		
木村 雅美	R元.12.19		

3 歴代教育委員長

氏名	自	至	備考
赤坂 準一	S27.10.1	S28.9.30	
花輪 高弘	S28.10.1	S29.10.1	
武安 良助	S29.10.1	S30.10.1	
藤平 喜三郎	S30.10.1	S39.10.1	
上田 邦男	S39.10.1	S41.6.8	
中川原 豊	S41.6.9	S46.9.30	
内藤 秀吉	S46.10.1	S58.9.30	
須賀 武夫	S58.10.7	S63.9.30	
中山 隆二郎	S63.10.7	H3.9.30	
大野 吉三郎	H3.10.2	H4.10.6	
堅田 勇	H4.10.7	H10.9.30	
峰田 弘道	H10.10.6	H17.6.21	
松村 昌孝	H17.9.29	H24.10.6	
垣内 登紀子	H24.10.18	H28.10.22	

4 歴代教育長

氏名	自	至	備考
高田 忠雄	S27.11.10	S28.3.31	兼任
山本 有友	S28.4.1	S29.6.16	〃
小林 与助	S29.7.17	S30.2.28	〃
高田 忠雄	S30.3.1	S30.4.22	〃
後藤 四郎	S30.4.23	S30.9.7	事務取扱
高田 忠雄	S30.9.8	S32.3.31	職務代行
上田 邦男	S32.4.1	S34.4.16	専任(非常勤)
後藤 四郎	S34.4.17	S34.6.3	職務代行
上田 邦男	S34.6.4	S38.3.31	専任(非常勤)
浜本 武志	S38.4.1	S38.12.12	専任
上田 邦男	S38.12.13	S39.4.4	専任(非常勤)
柳沼 高杉	S39.4.22	S44.9.30	専任
山下 文雄	S44.10.1	S53.6.23	〃
大笹 繁	S53.9.25	S56.9.30	〃
安田 麻夫	S56.10.1	S63.9.20	〃
後藤 八良	S63.10.12	H12.10.11	〃
青木 宏司	H12.10.23	H14.2.8	〃
武田 博	H14.2.20	R4.10.22	〃平成28年10月23日から新教育長
安宅 錦也	R4.10.23		専任

5 登別市の教育のあゆみ

- 明治 2年
8月 幌別郡が置かれる。
- 明治 4年
9月 幌別に共立教育所（郷学校・児童数28名）を開設し、読書科、算術科、習字科の三科を設けた。
- 明治 5年
8月 学制交付
- 明治14年
6月 室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校）を創立する。《幌別分校開設に当たり開拓使あてに書かれた貴重な資料である請願書をP55に掲載》
- 明治15年
8月 室蘭常盤学校鷺別分校（現鷺別小学校）を創立する。
10月 室蘭常盤学校幌別分校が幌別学校として独立し、室蘭常盤学校鷺別分校が幌別学校鷺別分校に名称変更する。
- 明治17年
9月 幌別学校鷺別分校が独立して鷺別小学校に改称する。
- 明治19年
4月 鷺別尋常小学校が戸数減少で廃校となり、幌別小学校附属鷺別分校となる。
- 明治21年
4月 ジョン・バチラー氏が私立相愛学校（後の愛隣学校）を創設する。
- 明治23年
3月 鷺別小学校と改称し、再び創立、独立する。（鷺別尋常高等小学校学校台帳より）
- 明治25年
6月 幌別尋常小学校鷺別小学校が鷺別岬の神社下に新築移転する。
8月 幌別尋常小学校登別分校を開設する。
- 明治28年
4月 幌別尋常小学校登別分校が登別尋常小学校として独立する。
8月 満岡寺（室蘭市）が登別温泉に説教所を設立し、寺小屋教育を開設する。
- 明治29年
5月 塵別尋常小学校富岸分校を開校する。
- 明治33年
4月 幌別、鷺別、登別の各校に補習科を設置する。
5月 幌別尋常小学校附属札内簡易教育所を開設する。
5月 塵別尋常小学校富岸分校が富岸簡易教育所として独立する。
- 明治34年
4月 幌別尋常小学校鷺別分校が鷺別尋常小学校として独立する。
- 明治36年
4月 登別尋常小学校附属分教場を開設する。（温泉小学校沿革誌より）
- 明治39年
4月 登別尋常小学校附属分教場が湯ノ滝簡易教育所として独立する。
（温泉小学校沿革誌より）
5月 幌別尋常小学校附属幌別鉦山教育所（鉦山小学校前身）を開設する。
- 明治41年
4月 小学校令により尋常科6年、高等科2年と改正される。
4月 湯ノ滝簡易教育所が湯乃滝教育所に改称する。
- 明治42年
4月 富岸簡易教育所が富岸教育所に改称する。
11月 幌別尋常小学校附属旭鉦特別教授場を開設する。

- 明治44年
2月 登別尋常小学校蘭法華特別教授所を開設する。
- 大正2年
2月 登別尋常小学校蘭法華特別教授所を廃止する。
9月 登別尋常小学校が校舎を増築する。
10月 幌別尋常小学校附属札内簡易教育所を廃止する。
- 大正4年
4月 湯乃滝教育所を湯乃滝尋常小学校と改称する。
6月 幌別尋常小学校附属旭鉦特別教授場が幌別鉦山尋常小学校の所属になる。
- 大正5年
4月 幌別尋常小学校附属札内教育所が開校する。
7月 鷺別尋常小学校が栄町1丁目に新築移転し、富岸教育所を併合する。
- 大正6年
4月 幌別尋常小学校に高等科を併置する。
- 大正7年
4月 鉦山小学校に補習科を併置する。
4月 幌別鉦山尋常小学校附属旭鉦特別教授場が旭尋常小学校となる。
4月 湯乃滝尋常小学校を登別温泉尋常小学校と改称し、現在地に移転する。
- 大正9年
4月 登別尋常小学校に高等科を併置する。
7月 旭尋常小学校が廃校となる。
- 大正11年
4月 鷺別尋常小学校附属富岸特別教授場を設置する。
6月 鷺別尋常小学校が鷺別村138番地に新築移転する。
- 大正12年
4月 登別温泉尋常小学校附属カルルス特別教授場（カルルス温泉小学校前身）を開設する。
- 昭和5年
4月 登別温泉尋常小学校に高等科を併置する。
- 昭和8年
4月 鷺別尋常小学校附属富岸特別教授場が富岸尋常小学校と改称して独立する。
12月 登別温泉尋常小学校附属カルルス特別教授場がカルルス温泉尋常小学校に改称して独立する。
- 昭和9年
4月 幌別鉦山尋常小学校が補習科を廃止し、高等科を併置する。
7月 富岸尋常小学校が校舎を改築する。
- 昭和10年
4月 鷺別尋常小学校に高等科を併置する。
5月 幌別尋常高等小学校が新築落成する。
- 昭和11年
1月 登別尋常高等小学校の新校舎が完成する。
- 昭和15年
4月 幌別尋常小学校附属札内教育所が札内尋常小学校として独立する。
10月 鷺別尋常高等小学校が鷺別町171番地（現在地）に移転新築する。
- 昭和16年
4月 全小学校の名称が国民学校として改称され、教育の戦時体制化が図られる。
- 昭和20年
1月 軍令により登別国民学校の一部が兵舎となり、終戦まで続く。
- 昭和22年
1月 学校給食が希望校の求めに応じて開始される。
4月 学校教育法が制定され、6・3・3・4制となり国民学校を小学校に改称する。

このときの登別の小学校は幌別、鷺別、富岸、幌別鉦山、札内、登別、登別温泉、カルルス温泉の8校であった。

- 5月 新学制により中学校を幌別、鷺別、登別に開設する。
- 7月 登別温泉中学校が開設され、この年に中学校4校を設立する。
- 昭和23年
 - 10月 旧幌別中学校を仮校舎として北海道立室蘭高等学校（現北海道室蘭栄高校）幌別分校定時制として北海道登別高等学校が開校。
- 昭和24年
 - 5月 登別中学校が登別本町1丁目1番地1（現在地）に新築移転する。
 - 11月 幌別中学校札内分校が開校し、札内小学校に併設される。
- 昭和25年
 - 1月 社会教育委員を設置する。
 - 7月 幌別小学校完全給食となる。
- 昭和26年
 - 4月 町制施行（幌別町）する。
 - 8月 幌別小学校来馬分校（現幌別西小学校）が設立認可される。
- 昭和27年
 - 6月 幌別小学校来馬分校が幌別西小学校として独立改称する。
 - 7月 登別小学校が校舎を増築する。
 - 10月 教育委員会発足 教育委員の公選 が行われる。
- 昭和28年
 - 4月 幌別鉦山中学校在幌別鉦山小学校に併設される。
 - 11月 幌別西小学校が完全給食となる。
- 昭和29年
 - 4月 札内中学校が独立し、札内小学校に併設される。
- 昭和30年
 - 1月 幌別小学校が全焼し、幌別西小学校及び幌別中学校を間借りして授業を行う。
 - 10月 全校舎（赤レンガ）を新築落成する。
- 昭和31年
 - 6月 「地教行法」の公布により、教育委員の公選廃止。
 - 10月 新教育委員（赤坂惇一氏、藤平喜三郎氏、上田邦男氏、勝間久太郎氏、中川原豊氏）が任命される。
- 昭和32年
 - 10月 登別温泉小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
- 昭和33年
 - 2月 登別小学校が校舎を増築する。
 - 10月 鷺別小学校校舎（レンガ造）を新築落成する。
 - 10月 カルルス温泉小学校を新築落成する。
- 昭和36年
 - 2月 富岸小学校が校舎を新築落成する。
 - 4月 登別町（幌別町から）として町名改正する。
- 昭和38年
 - 4月 町立登別高校を開設する。
 - 4月 私立室蘭第二大谷高等学校（現登別大谷高校）が開校する。
 - 7月 登別中学校の新校舎が完成する。
 - 9月 中央公民館を開館する。
 - 12月 鷺別公民館を開館する。
- 昭和40年
 - 4月 登別高校が道立に移管する。
 - 4月 登別温泉小学校特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」開設する。

- 4月 札内小・中学校の校舎を落成する。
- 10月 鷺別小学校が校舎を増築する。
- 10月 私立室蘭第二大谷高等学校が登別大谷高等学校に改称される。
- 昭和41年
 - 4月 幌別西小学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 4月 登別温泉中学校の特殊学級として、厚生年金登別整形外科病院内に「ひかり学園（肢体不自由）」を開設する。
 - 7月 登別の小・中学校初の学校プールが幌別西小学校に設置する。
 - 12月 登別公民館が完成する。
- 昭和42年
 - 1月 給食センターが開設され、町内小中学校が完全給食となる。
 - 4月 幌別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 4月 財団法人登別町育英会が設立される。
- 昭和43年
 - 2月 鷺別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 4月 鷺別小学校・鷺別中学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
 - 8月 町営陸上競技場を開設する。〔3種公認、⇒S48年11月2種公認〕
- 昭和44年
 - 4月 登別温泉公民館を開館する。
 - 5月 登別市青少年会館を開館する。（開道100年記念事業）
- 昭和45年
 - 2月 登別中学校：北海道教育実践表彰受賞
 - 4月 幌別東小学校を開校する。特殊学級（知的障害）を併設する。
 - 8月 市制施行
 - 12月 札内小中学校の体育館が完成する。
- 昭和46年
 - 2月 幌別鉦山小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 4月 若草小学校を開校する。
- 昭和47年
 - 5月 登別市立図書館が竣工する。
- 昭和49年
 - 2月 幌別東小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
 - 3月 幌別鉦山小中学校：閉校し、幌別西小学校・西陵中学校に統合する。
 - 4月 西陵中学校を開校する。
 - 4月 市内全域の町名地番変更（登別市〇〇町〇丁目〇番地〇）
 - 10月 総合体育館を開館する。
 - 11月 市民プール（千歳町）が完成する。
- 昭和50年
 - 2月 市民プール（千歳町）を開館する。
- 昭和51年
 - 4月 市立富士幼稚園を開園する。
- 昭和52年
 - 4月 青葉小学校を開校する。
 - 4月 市立若草幼稚園を開園する。
- 昭和53年
 - 2月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰・全国表彰「博報賞」受賞
 - 4月 市立登別温泉幼稚園を開園する。
 - 4月 富岸小学校：移転新築する。
 - 4月 市民研修センターを開設する。（旧鉦山小・中学校施設を利用）
 - 9月 登別中学校：文部省「生徒指導研究推進校」感謝状受賞

昭和54年

- 3月 若草小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 富岸青少年会館を開館する。
- 4月 北海道登別南高等学校が開校する。
- 11月 登別小学校：文部省指定北海道学校歯科保健活動の研究会を開催する。

昭和55年

- 4月 若草小学校：特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 学校法人登別大谷学園が発足する。
- 9月 市営水泳プール（野外）を開設する。

昭和56年

- 1月 美園児童センターを開館する。
- 7月 幌別西小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
- 9月 郷土資料館を開館する。

昭和57年

- 2月 札内小中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 3月 カルルス温泉小学校が閉校し、登別温泉小学校に統合する。
- 4月 日本工学院北海道専門学校開校する。

昭和58年

- 4月 緑陽中学校を開校する。
- 6月 市民会館を開館する。
- 9月 登別温泉小学校ひかり学園分校が豪雨災害で登別厚生年金病院が休業したため休校となる。
- 9月 登別大谷高等学校の体育館が全焼する。

昭和59年

- 2月 登別温泉中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 4月 幌別小学校に言語治療教室を開設する。
- 4月 西陵中学校に特殊学級（知的障害）を設置する。
- 4月 登別中学校を改築する。（これにより、市内小・中学校が全て耐火構造となる）
- 6月 登別大谷高等学校の体育館が完成する。
- 10月 登別小、登別中、幌別中の三校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。

昭和60年

- 6月 鷺別公民館を開館する。
- 10月 鷺別小学校に野外プールを開設する。

昭和62年

- 2月 登別温泉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞

昭和63年

- 5月 幌別西小学校がベルマーク百万点を達成し、全国教育設備助成会より表彰される。

平成元年

- 3月 青葉小学校が「長縄跳び90人」のギネスに挑戦し、185回を跳んで世界新記録を樹立する。
- 4月 教育委員会に生涯学習推進室を新設する。

平成2年

- 8月 市立図書館を改修する。
- 9月 登別小学校を改修する。
- 9月 幌別東小学校・幌別中学校が文部省指定「道徳教育共同推進校」として研究会を開催する。
- 10月 幌別中学校とデンマーク・ノーアエアスクールとの姉妹校友好を契る。

平成3年

- 2月 幌別中学校：胆振管内教育実践表彰受賞

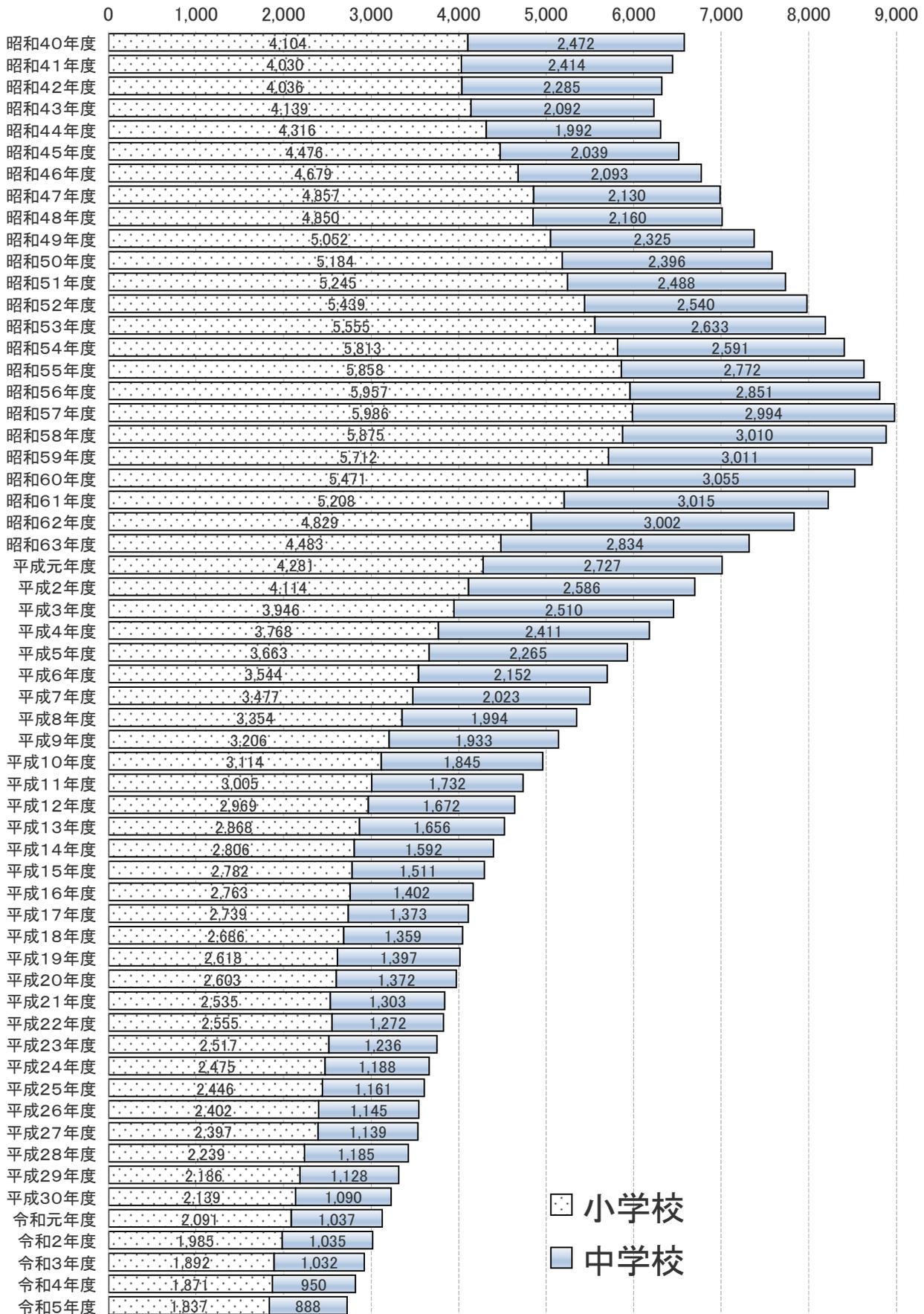
- 6月 幌別西小学校：「オアシスルーム」を開設する。
- 9月 若草小学校：「若草ドーム」を開設する。
- 平成4年
11月 登別中学校：校舎大規模改造工事3年度分が完了する。
- 4月 登別温泉中学校：北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
- 5月 富岸小学校：全日本花いっぱい連盟より表彰受賞
- 10月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で法務大臣表彰受賞
- 11月 登別中学校：校舎大規模改造工事4年度分が完了する。
- 11月 登別中学校：「ミツワルーム」を開設する。（生徒用コンピュータ導入）
- 11月 各中学校：コンピュータ2台ずつ設置する。
- 12月 富岸小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 12月 幌別小学校：校舎改築工事着工する。
- 平成5年
6月 鷺別中学校と幌別中学校に生徒用コンピュータを導入する。
- 11月 富岸小学校のPTA活動が北海道PTA連合会と日本PTA全国協議会より会長表彰受賞
- 11月 登別中学校体育館の大規模工事が完了する。
- 12月 幌別小学校の改築工事が完成する。
- 平成6年
3月 幌別小学校：改築工事が完了する。
- 3月 青葉小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 9月 幌別小学校：新校舎落成記念式典
- 10月 西陵中学校：学校花壇全国表彰受賞
- 平成7年
2月 幌別中学校：北海道教育実践表彰受賞
- 10月 緑陽中学校：コンピュータ21台を設置する。
- 平成8年
3月 郷土資料館：文化伝承館を開館する。
- 10月 幌別西小学校：文部省「調査統計功労者表彰」受賞
- 平成9年
4月 岡志別の森運動公園を開園する。
- 8月 若草小学校：三階に和室を設置する。
- 平成10年
3月 若草小学校：若草ドームを閉鎖する。
- 3月 登別温泉小中学校ひかり学園分校が廃止される。
- 4月 札内小中学校：閉校し、幌別小学校・幌別中学校に統合する。
- 平成11年
2月 登別小学校：コンピュータ室を新設する。
- 3月 幌別小学校：北海道教育実践表彰受賞
- 8月 青葉小学校：コンピュータ（14台）室を新設する。
- 9月 鷺別小学校：コンピュータ室を新設する。
- 11月 緑陽中学校：「壁新聞コンクール」で学校賞受賞
- 11月 若草小学校：コンピュータ室を新設する。
- 平成12年
3月 西陵中学校：胆振管内教育実践表彰受賞
- 11月 青葉小学校：IT光ケーブル・校内LAN完成
- 10月 西陵中学校：校舎・体育館大規模改造工事（校舎耐震改修含む）が完了する。
- 12月 幌別東小学校：コンピュータルーム・準備室を設置する。
- 平成13年
2月 西陵中学校：北海道教育実践表彰受賞
- 10月 幌中、幌小、東小のおやじの会が「胆振おやじの会サミット」を開催する。

- 1 1月 登別小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
平成14年
- 1月 若草小学校：光ファイバーケーブル敷設、校内LAN配線工事完成
3月 登別小学校：胆振管内教育実践表彰受賞
4月 ネイチャーセンター「ふおれすと鉾山」を開館する。
6月 登別中学校：登別漁港清掃活動で北海道漁港共同組合より全道表彰受賞
10月 登別小学校：全日本学校歯科保健優良校として文部科学大臣表彰受賞
平成15年
- 10月 鷺別中学校：北海道「中学校の税に関する作文コンクール」で学校賞受賞
11月 幌別小学校：文科省指定「国語力向上モデル事業」研究会を開催する。
11月 幌別中学校「おやじの会」：日本PTA全国協議会・北海道PTA連合会より表彰される。
12月 市民プール（千歳町）閉館する。
平成16年
- 3月 登別温泉中学校：閉校し、登別中学校に統合する。
6月 市民プール「らくあ」新設（野外・学校プールが全面閉鎖される）
11月 若草小学校：校舎・体育館大規模改造工事（耐震改修含む）が完了する。
7月 市民プール（千歳町）解体する。
11月 富岸小学校：文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研究会開催
平成17年
- 3月 北海道登別南高校閉校する。
4月 北海道青嶺高等学校が開校する。
4月 鷺別小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
8月 鷺別小学校：学校前花壇が日本道路協会賞受賞
11月 幌別小学校：文科省指定「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催「国語・日本語」部門で博報賞受賞
平成18年
- 2月 富岸小学校：北海道教育実践表彰受賞 幌別東小学校：胆振教育実践表彰受賞
4月 西陵中学校：文科省「キャリア教育実践校」指定
10月 幌別小学校：文科省「伝え合う力を養う調査研究事業」公開研究会開催
平成19年
- 3月 登別温泉小学校が閉校し、登別小学校に統合する。
3月 北海道登別高等学校閉校
4月 登別明日中等教育学校が開校する。
4月 幌別西小学校：文科省「子どもと親の相談員等活用調査研究事業」推進
6月 のぼりべつ文化交流館を開館する（旧温泉中学校校舎を利用）
10月 幌別中学校：「社会を明るくする運動」で北海道実施委員会の委員長表彰受賞
11月 幌別小学校：文科省「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」公開研究会開催
11月 登別小学校：文科省「コミュニティ・スクール推進事業」公開研究会開催
11月 鷺別中学校：文科省「人間としてのあり方・生き方を考える教育」実践研究事業の公開研究会開催
平成20年
- 2月 幌別東小学校：北海道教育実践表彰受賞
2月 登別中学校：サイパン中学生交流事業
6月 洞爺湖サミットアメリカ合衆国歓迎式典に登別OMB（おにっこマーチングバンド）参加
6月 鷺別小学校：放課後こども教室「ひなわしメート」を開設する。
平成21年
- 9月 新型インフルエンザが流行（学級閉鎖・臨時休校相次ぐ）
平成22年
- 2月 全小中学校に大型デジタルテレビを配置する。
4月 市教委が文部科学省「全国学力・学習状況調査の結果を活用した調査研究」指定を受ける。
10月 教育委員会点検・評価報告書（平成21年度版）作成し公表を行う。

- 1 2月 鷺別中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成23年
- 3月 東日本大震災が発生 大津波警報により多くの学校が避難所となる。姉妹都市白石市に、応援メッセージや義援金などの支援活動を行う。
- 1 0月 幌別東小学校：放課後子ども教室「はまなすメート」を開設する。
- 1 2月 青葉小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 1 2月 登別中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成24年
- 2月 全小学校でスキー授業実施（青葉小はスケート）
- 1 1月 暴風雪による大停電のため市内小中学校臨時休校(最長4日間)
- 1 2月 幌別小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 1 2月 西陵中学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成25年
- 4月 幌別小学校：道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校
- 1 2月 登別小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 平成26年
- 2月 富岸小学校：体育館の耐震改修が完了する。
- 2月 全小中学校でフッ化物洗口実施（中学校4校開始）
- 4月 幌別中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託校
- 4月 他12小・中学校：道教委「土曜授業推進事業」実践再委託協力校
- 6月 市内全小・中学校でコミュニティ・スクールを開設する。
- 平成27年
- 3月 鷺別小学校：屋内運動場改築工事が完了する（全ての屋内運動場耐震化完了）。
- 3月 鷺別中学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 3月 幌別小学校：平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞
- 5月 幌別中学校：神奈川県海老名市立大谷中学校修学旅行による生徒間交流
- 6月 登別市総合教育会議設置
- 7月 鷺別小学校：校舎改築工事着工
- 9月 登別小学校：平成27年度日本教育公務員弘済会教育研究実践奨励校指定校
- 1 0月 登別小学校：北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞
- 1 2月 登別市学校支援地域本部事業：文部科学大臣表彰受賞
- 平成28年
- 1月 総合体育館：耐震改修・大規模改修が完了する。
- 2月 登別市いじめ防止基本方針策定
- 7月 登別市教育大綱策定
- 1 2月 鷺別小学校：校舎改築工事が完了する。
- 平成29年
- 2月 青葉小学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 5月 市長部局に登別市いじめ調査委員会を、教育委員会に登別市重大事案対策委員会を設置する。
- 平成30年
- 1月 登別中学校：校舎の渡り廊下の改築が完了する。
- 2月 登別中学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 2月 登別小中一貫教育基本方針策定
- 3月 鷺別小学校：外構工事が完了する。
- 9月 鷺別小学校：新校舎落成記念式典
- 9月 登別市立学校における働き方改革基本方針策定
- 平成31年（令和元年）
- 2月 富岸小学校：校舎の耐震改修が完了する。
- 3月 登別市教育振興基本計画策定

- 7月 登別市立学校に係る部活動の方針策定
- 令和 2年
 - 12月 幌別西小学校：校舎の耐震改修が完了する。
 - 2月～5月 新型コロナウイルス感染症対策のため小中学校臨時休業 2/27～3/24、4/20～5/31
 - 3月 幌別西小学校：渡り廊下改築工事が完了する。
 - 3月 登別小学校：校舎の耐震改修が完了する。
 - 3月 登別市教育施設長寿命化計画策定
 - 9月 登別公民館：施設老朽化のため廃止する。
- 令和 3年
 - 3月 幌別東小学校：校舎の耐震改修が完了する。（市内小学校の耐震化が完了する。）
 - 3月 幌別中学校：校舎の耐震改修が完了する。（市内中学校の耐震化が完了する。）
 - 3月 G I G Aスクール構想に伴う一人一台端末（Chromebook）の整備完了
 - 3月 市内小中学校13校へ無線通信ネットワークの整備完了
 - 7月 登別市立中学校における重大事態の再発防止策策定
 - 8月 登別市立中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～策定
- 令和 4年
 - 1月 登別市営陸上競技場：供用を廃止し、市役所本庁舎建設予定地となる。
 - 3月 富岸青少年会館：施設老朽化のため廃止する。
 - 3月 鷺別公民館及び登別温泉公民館：コミュニティ施設への再編により用途廃止する。
 - 3月 幌別東小学校の統合に関する方針策定
 - 3月 登別市教育施設等個別施設計画策定
- 令和 5年
 - 9月 登別地域クラブ活動開始（休日）
 - 9月 登別中学校の統合に関する方針策定

小・中学校児童生徒数の推移



小中学校の学校数・学級数等の推移(昭和40年～平成6年)

各年5月1日現在

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
昭和40年度	9	6	15	106	62	168	136	104	240	2,092	2,012	4,104	1,229	1,243	2,472	3,321	3,255	6,576
昭和41年度	9	6	15	104	60	164	140	103	243	2,078	1,952	4,030	1,215	1,199	2,414	3,293	3,151	6,444
昭和42年度	9	6	15	107	59	166	145	106	251	2,064	1,972	4,036	1,143	1,142	2,285	3,207	3,114	6,321
昭和43年度	9	6	15	115	57	172	153	107	260	2,112	2,027	4,139	1,055	1,037	2,092	3,167	3,064	6,231
昭和44年度	9	6	15	126	54	180	169	108	277	2,210	2,106	4,316	1,007	985	1,992	3,217	3,091	6,308
昭和45年度	10	6	16	131	57	188	187	113	300	2,315	2,161	4,476	1,005	1,034	2,039	3,320	3,195	6,515
昭和46年度	11	6	17	142	56	198	204	114	318	2,376	2,303	4,679	1,049	1,044	2,093	3,425	3,347	6,772
昭和47年度	11	6	17	144	61	205	210	121	331	2,503	2,354	4,857	1,095	1,035	2,130	3,598	3,389	6,987
昭和48年度	11	6	17	145	63	208	220	124	344	2,498	2,352	4,850	1,123	1,037	2,160	3,621	3,389	7,010
昭和49年度	10	6	16	145	64	209	217	135	352	2,636	2,416	5,052	1,179	1,146	2,325	3,815	3,562	7,377
昭和50年度	10	6	16	149	66	215	221	135	356	2,726	2,458	5,184	1,199	1,197	2,396	3,925	3,655	7,580
昭和51年度	11	7	18	150	68	218	205	137	342	2,693	2,552	5,245	1,266	1,222	2,488	3,959	3,774	7,733
昭和52年度	12	7	19	157	68	225	237	139	376	2,761	2,678	5,439	1,323	1,217	2,540	4,084	3,895	7,979
昭和53年度	12	7	19	159	69	228	232	141	373	2,809	2,746	5,555	1,381	1,252	2,633	4,190	3,998	8,188
昭和54年度	12	7	19	162	69	231	239	143	382	2,937	2,876	5,813	1,343	1,248	2,591	4,280	4,124	8,404
昭和55年度	12	7	19	165	73	238	247	150	397	2,989	2,869	5,858	1,441	1,331	2,772	4,430	4,200	8,630
昭和56年度	12	7	19	170	76	246	256	156	412	3,020	2,937	5,957	1,492	1,359	2,851	4,512	4,296	8,808
昭和57年度	11	7	18	168	79	247	256	159	415	3,055	2,931	5,986	1,549	1,445	2,994	4,604	4,376	8,980
昭和58年度	11	8	19	166	80	246	250	166	416	3,030	2,845	5,875	1,517	1,493	3,010	4,547	4,338	8,885
昭和59年度	11	8	19	159	80	239	244	165	409	2,970	2,742	5,712	1,494	1,517	3,011	4,464	4,259	8,723
昭和60年度	11	8	19	154	82	236	239	168	407	2,826	2,645	5,471	1,538	1,517	3,055	4,364	4,162	8,526
昭和61年度	11	8	19	152	80	232	230	167	397	2,671	2,537	5,208	1,555	1,460	3,015	4,226	3,997	8,223
昭和62年度	11	8	19	152	83	235	225	166	391	2,524	2,305	4,829	1,526	1,476	3,002	4,050	3,781	7,831
昭和63年度	11	8	19	147	75	222	222	164	386	2,310	2,173	4,483	1,450	1,384	2,834	3,760	3,557	7,317
平成元年度	11	8	19	143	77	220	222	160	382	2,196	2,085	4,281	1,370	1,357	2,727	3,566	3,442	7,008
平成2年度	11	8	19	142	76	218	215	156	371	2,085	2,029	4,114	1,330	1,256	2,586	3,415	3,285	6,700
平成3年度	11	8	19	138	76	214	212	164	376	2,004	1,942	3,946	1,286	1,224	2,510	3,290	3,166	6,456
平成4年度	11	8	19	134	73	207	212	154	366	1,884	1,884	3,768	1,258	1,153	2,411	3,142	3,037	6,179
平成5年度	11	8	19	127	72	199	213	159	372	1,822	1,841	3,663	1,199	1,066	2,265	3,021	2,907	5,928
平成6年度	11	8	19	124	69	193	201	148	349	1,773	1,771	3,544	1,110	1,042	2,152	2,883	2,813	5,696

小中学校の学校数・学級数等の推移(平成7年～令和5年)

各年5月1日現在

()内は特別支援学級児童生徒数及び学級数の内数

区分 年次	学校数			学級数			教職員数			小学校			中学校			合計		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成7年度	11	8	19	124	68	192	201	151	352	1,738	1,739	3,477	1,028	995	2,023	2,766	2,734	5,500
平成8年度	11	8	19	120	65	185	200	149	349	1,717	1,637	3,354	984	1,010	1,994	2,701	2,647	5,348
平成9年度	11	8	19	115	63	178	198	148	346	1,662	1,544	3,206	965	968	1,933	2,627	2,512	5,139
平成10年度				(5)	(4)	(9)						(9)			(6)			(15)
	9	6	15	109	59	168	192	141	333	1,621	1,493	3,114	909	936	1,845	2,530	2,429	4,959
平成11年度				(4)	(4)	(8)						(8)			(9)			(17)
	9	6	15	106	59	165	234	142	376	1,571	1,434	3,005	878	854	1,732	2,449	2,288	4,737
平成12年度				(7)	(4)	(11)						(12)			(11)			(23)
	9	6	15	110	57	167	192	139	331	1,556	1,413	2,969	839	833	1,672	2,395	2,246	4,641
平成13年度				(8)	(5)	(13)						(16)			(11)			(27)
	9	6	15	108	57	165	193	136	329	1,499	1,369	2,868	832	824	1,656	2,331	2,193	4,524
平成14年度				(8)	(5)	(13)						(20)			(8)			(28)
	9	6	15	108	56	164	194	135	329	1,456	1,350	2,806	819	773	1,592	2,275	2,123	4,398
平成15年度				(12)	(5)	(17)						(23)			(12)			(35)
	9	6	15	111	53	164	191	135	326	1,399	1,383	2,782	806	705	1,511	2,205	2,088	4,293
平成16年度				(12)	(7)	(19)						(25)			(14)			(39)
	9	5	14	110	49	159	206	117	323	1,366	1,397	2,763	762	640	1,402	2,128	2,037	4,165
平成17年度				(16)	(6)	(22)						(29)			(11)			(40)
	9	5	14	113	47	160	211	114	325	1,343	1,396	2,739	729	644	1,373	2,072	2,040	4,112
平成18年度			0	(17)	(7)	(24)						(32)			(11)			(43)
	9	5	14	112	52	164	203	114	317	1,321	1,365	2,686	719	640	1,359	2,040	2,005	4,045
平成19年度				(19)	(9)	(28)						(36)			(12)			(48)
	8	5	13	111	51	162	171	102	273	1,310	1,308	2,618	718	679	1,397	2,028	1,987	4,015
平成20年度				(18)	(10)	(28)						(35)			(18)			(53)
	8	5	13	110	51	161	155	94	249	1,297	1,306	2,603	706	666	1,372	2,003	1,972	3,975
平成21年度				(17)	(9)	(26)						(37)			(18)			(55)
	8	5	13	108	51	159	168	104	272	1,276	1,259	2,535	653	650	1,303	1,929	1,909	3,838
平成22年度				(17)	(9)	(26)						(41)			(23)			(64)
	8	5	13	108	50	158	172	105	277	1,323	1,232	2,555	615	657	1,272	1,938	1,889	3,827
平成23年度				(16)	(9)	(25)						(40)			(20)			(60)
	8	5	13	107	47	154	168	99	267	1,307	1,210	2,517	589	647	1,236	1,896	1,857	3,753
平成24年度				(15)	(8)	(23)						(47)			(18)			(65)
	8	5	13	104	46	150	173	97	270	1,286	1,189	2,475	591	597	1,188	1,877	1,786	3,663
平成25年度				(15)	(9)	(24)						(42)			(17)			(59)
	8	5	13	105	46	151	174	97	271	1,287	1,159	2,446	604	557	1,161	1,891	1,716	3,607
平成26年度				(15)	(10)	(25)						(48)			(26)			(74)
	8	5	13	102	44	146	169	96	265	1,279	1,123	2,402	595	550	1,145	1,874	1,673	3,547
平成27年度				(19)	(10)	(29)						(49)			(29)			(78)
	8	5	13	105	45	150	173	98	271	1,265	1,132	2,397	595	544	1,139	1,860	1,676	3,536
平成28年度				(21)	(11)	(32)						(56)			(32)			(88)
	8	5	13	106	49	155	175	102	277	1,160	1,079	2,239	629	556	1,185	1,789	1,635	3,424
平成29年度				(22)	(11)	(33)						(76)			(29)			(105)
	8	5	13	107	45	152	175	98	273	1,130	1,056	2,186	606	522	1,128	1,736	1,578	3,314
平成30年度				(20)	(11)	(31)						(67)			(32)			(99)
	8	5	13	105	44	149	173	95	268	1,094	1,045	2,139	590	500	1,090	1,684	1,545	3,229
令和元年度				(20)	(10)	(30)						(63)			(30)			(93)
	8	5	13	105	42	147	172	92	264	1,075	1,016	2,091	573	464	1,037	1,648	1,480	3,128
令和2年度				(18)	(10)	(28)						(63)			(27)			(90)
	8	5	13	99	43	142	161	92	253	1,028	957	1,985	573	462	1,035	1,601	1,419	3,020
令和3年度				(20)	(9)	(29)				(55)	(14)	(69)	(17)	(5)	(22)	(72)	(19)	(91)
	8	5	13	98	44	142	160	95	255	987	905	1,892	566	466	1,032	1,553	1,371	2,924
令和4年度				(19)	(10)	(29)				(59)	(15)	(74)	(19)	(5)	(24)	(78)	(20)	(98)
	8	5	13	95	43	138	163	93	256	989	882	1,871	488	462	950	1,477	1,344	2,821
令和5年度				(21)	(12)	(33)				(60)	(14)	(74)	(23)	(12)	(35)	(83)	(26)	(109)
	8	5	13	96	43	139	159	94	253	906	931	1,837	438	450	888	1,344	1,381	2,725

登別市立幌別小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール ・教材園での栽培活動 ・花の植替などのボランティア活動 ・外国人との交流を通じた国際理解教育 ・ICT活用による情報活用力の向上 ・全校一斉に取り組む朝読書・朝学習 ・地域との交流「学校地域協働本部事業」 田植え、稲刈り、収穫祭、乗馬体験 ・高学年外国語科における専科指導
創立年月日	明治14年6月14日	研究主題 考えを表現し、よりよい学びにつなげる子の育成 ～個の学びが充実する算数科の授業の在り方～
所在地	登別市中央町6丁目19番地1	
電話・FAX	TEL 85-2521 Fax 85-2522	
校長名	柴田 政人	
教頭名	田原 亮	
児童生徒数	246名	学校沿革の略歴 明治 14. 6 室蘭常盤学校分校として創立 15. 10 幌別学校と称し、独立開校する。 38. 4 登別小学校分離 大正 6. 4 高等科を併置、補習学校廃止 15. 7 幌別青年訓練所併設 昭和 6. 6 開校50周年記念式典 22. 4 幌別小学校と改称 27. 7 幌別西小学校分離 30. 1 校舎焼失（幌別西小、幌別中で間借り授業） 30. 11 校舎新築落成 校歌制定 45. 4 幌別東小学校分離 56. 10 開校100周年記念式典 59. 4 言語治療教室開設 平成 5. 12 新校舎改築工事完成 6. 9 新校舎落成記念式典 9. 2 胆振管内教育実践表彰受賞 10. 2 北海道教育実践論文全文掲載 11. 3 北海道教育実践表彰受賞 13. 9 開校120周年記念式典 14. 11 体育館屋根・壁全面改修 15. 4 読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰 17. 11 第36回博報賞「国語・日本語部門」受賞 23. 9 開校130周年記念児童集会 24. 4 道教委「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校 11 体育館耐震化工事完成 27. 3 平成26年度胆振管内教育実践表彰受賞 29. 2 平成28年度北海道教育実践表彰受賞 30. 1 平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞 令和 2. 4 学校力向上に関する総合実践事業地域指定中核校 外国語科専科開始 3. 11 開校140周年記念動画公開 5. 3 令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞 令和4年度胆振管内教育実践表彰受賞（団体・個人）受賞
学級数	普通11 特別2 計13学級	
職員数	26名	
敷地面積	27,336m ²	
学校教育目標	21世紀に生きるため豊かな人間性の育成をめざし、児童一人一人個性豊かな能力を生かして心身ともに健全な日本国民の育成にあたる。 ○すすんで学び よく考える子 ○互いに助けあい 思いやる子 ○丈夫な体で たくましく生き抜く子	
学校経営方針・今年度の重点	【学校経営の基本的考え方】 ○子供理解に基づく授業や共感的理解に立った生徒指導、生き生きと活動できる場の設定など「 教育活動を深化する学校づくり 」の推進 ○「挨拶や返事、整える」ができ、自己肯定感有用感、一生懸命の心態度、円満な関係を築く思いやりをもった「 自立・自律できる子ども 」の育成 ○早寝早起き朝ご飯の習慣や家庭での学習習慣の形成を図り、子どもの学びと安全を見守る「 愛情で包む家庭、見守る地域 」との協働 【学校経営の重点】 〈子どもの未来を支える学校を目指して〉 ア. 安心・安全な学校生活 イ. 学力保障（授業） ウ. 元気な毎日、健康な体 運営面：地域・学校・家庭が一体となった「学びの環境」づくり 指導面：確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む教育活動の推進 【学校経営の指針】 〈知力・心力・体力を一体とした子どもの総合的な学力形成の実現〉 ⇒授業（指導）を起点に、学んだこと身に付けたことを発揮・定着・進化する場があり、さらに成長・変容を実感できる場の連動性、連続性をもった教育活動を展開する。	

登別市立幌別西小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導（算数科） ・西陵中学校区小中一貫教育推進事業 ・コミュニティ・スクール推進事業 ・高学年外国語科における専科指導 ・小中合同津波避難訓練 ・明日中等教育学校英語サポート（全学年） ・学校力向上総合推進事業 ・鬼っ子算数教室 ・ふれあい清掃（親子清掃）おたすけ清掃（PTA） ・世代間交流（2年）
創立年月日	昭和27年6月1日	
所在地	登別市片倉町5丁目13番地	研究主題 西小プラスONE ～確かな学力を身に付けさせる授業を目指して～
電話・FAX	TEL 85-2364 Fax 85-2025	
校長名	小原 毅	
教頭名	立石 晃	
児童生徒数	275名	
学級数	普通12 特別3 計15学級	
職員数	24名	学校沿革の略歴 昭和 26. 8 幌別小学校来馬分校として発足 27. 6 幌別西小学校として独立認可 33.10 屋内体育館落成 37. 7 開校10周年記念式典 40.11 プール完成 52. 4 通学区変更により青葉小学校が分離 54. 3 新校舎第1期工事完成 55. 3 新校舎第2期工事完成 56. 7 道P連会長表彰受賞、PTA全国協議会会長表彰受賞（11月） 57. 9 開校30周年記念式典 59. 2 屋内体育館改築工事完了 60. 8 三線校舎内部改築工事完了 62. 4 情緒障害児学級新設 63. 5 ベルマーク収集100万点を達成し表彰を受ける。 平成 3. 6 西小シンボル[イチイの木二世]移植オアシスルーム完成 7.11 道立研究所研究指定校公開研究会 8.10 学校基本調査文部大臣表彰を受賞 11. 9 トイレ水洗化工事完了 13. 9 開校50周年記念式典 15.10 防犯灯設置 18.10 放課後児童クラブ開設 23.11 開校60周年記念式典開催 24. 4 学校力向上に関する総合実践事業 近隣実践校指定 25. 3 胆振管内パイロット校指定 26. 4 コミュニティ・スクール開始 28. 4 市小中一貫教育研究実践校（H29同） 30. 1 平成29年度北海道公立学校等教育論文「全文掲載」 30. 3 平成29年度胆振管内教育実践表彰 30. 4 学校力向上に関する総合実践事業 実践校指定 地域連携研修 主体校 30. 7 校舎耐震改修・外壁改修工事開始 令和 2. 1 学校力向上事業実践指定校合同学校公開 2. 3 渡り廊下改築工事完了 2. 5 学級農園移設完了 2. 6 令和2年度北海道PTA連合会会長表彰 2.11 令和2年度租税教育推進校等表彰 日本PTA全国協議会会長表彰 3. 2 GIGAスクール構想に係るPC端末等導入 3.11 開校70周年をお祝いする児童集会 優良PTA文部科学大臣表彰 4. 8 体育館照明LED工事
敷地面積	35,544m ²	
学校教育目標 心豊かでたくましく生きぬく 実践力のある人間の育成 ○進んで勉強する子 ○やさしく思いやりのある子 ○くじけないでやりぬく子 ○進んで体力づくりをする子	子どもの総合的な学力形成を図る「学びの循環づくり」～西小プラスONE～ 方針 1. 保護者・地域と一体となり地域に根ざした教育活動の推進【地域との連携・協力体制の構築】 2. 「分かった」「できた」を実感し、楽しく学び合える学校【知徳体の総合的な学力形成】 3. 教職員が協働性を発揮し、互いに高められる学校【チーム幌西としての連帯感や一体感】 4. 教育環境に配慮した安全・安心な学校【安全に配慮した施設設備と美観を意識した教育環境の整備】 重点 1. 生命尊重や思いやり、豊かな心の育成 2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 3. 特色ある教育課程の充実 4. 健康増進と体力向上 5. 特別支援教育の充実 6. 基本的な生活習慣の定着 7. 防災、安全教育の充実 8. 共感的な子供理解に基づく生徒指導の充実 9. 教職員の専門性を高める研修の充実 10. 学習環境の充実 11. 働き方改革の推進 12. 保護者、地域との連携 13. 家庭・地域、関係機関との連携	

登別市立鷺別小学校

		特色 ・ひなわしデー（地域・保護者の方の自由参観日）の実施（年2回） ・朝学習と「鬼っ子算数教室」による基礎・基本の確実な定着 ・朝読書、学校司書による読書活動の推進 ・「鷺別子ども見守りたい」による登校・下校の安全指導
創立年月日	明治23年4月1日	研究主題 「学ぶ意欲」「分かる喜び」「できる自信」「役立つ実感」を子どもが得られる授業づくり ～ICTの効果的な活用を通して～
所在地	登別市鷺別町4丁目36番地21	
電話・FAX	TEL 86-7011 Fax 86-2817	
校長名	久 葉 忠 男	
教頭名	牛 島 夏 陽	
児童生徒数	224名	学 校 沿 革 の 略 歴 明治 15. 8 常盤小学校鷺別分校として創立 10 幌別小学校鷺別分校に名称変更 19. 4 戸数減少で廃校 23. 3 幌別小学校鷺別分校として再開校することが決定される。 34. 4 鷺別尋常小学校と称する。 昭和 10. 4 鷺別尋常高等小学校と称する。 16. 4 鷺別国民学校と改称される。 18. 9 屋内体育館及び4教室増築 22. 4 鷺別小学校と改称される。 35.10 開校70周年記念式典 46. 4 若草小学校（通学区分離）が分離開校 54.10 開校90周年記念式典 60.10 学校プール完成 平成 元. 5 開校100周年記念式典 3. 3 道教育庁生涯学習まちづくり百選に「鷺別子ども獅子舞保存会」が選定 4.11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 8.11 胆振教育局研究指定公開研究会開催 11. 9 コンピュータ室新設 13. 4 児童ボランティア活動普及事業と協力校指定情報教育推進協力校の指定 16. 4 「子どもと親の相談員」活用調査研究指定 17. 8 学校前花壇整備で日本道路協会より表彰 22. 1 一線校舎トイレ洋式化完了 25. 2 スキー授業開始 30. 6 新校舎落成記念運動会 30. 9 新校舎落成記念式典 30.11 新校舎落成・開校130周年記念及び平成29・30年度 胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校 登別市教育実践研究奨励校公開研究会開催 令和 元.10 開校130周年記念学芸会開催 2.11 「絆づくりメッセージコンクール」にて胆振教育局審査員特別賞受賞 3.12 「絆づくりメッセージコンクール」にて胆振教育局奨励賞受賞 3. 4 中一ギャップ問題未然防止事業推進校 4. 4 中一ギャップ問題未然防止事業推進校 5. 4 中一ギャップ問題未然防止事業推進校
敷地面積	26,330m ²	
学校教育目標	豊かな心情をつちかい、活動力に満ちた健康な心身の育成を図る ○よく協力し、思いやりのある子 ○健康でねばり強い子 ○自分で考え、正しく判断し、実践する子	
学校経営方針・今年度の重点	学校経営の方針 児童の姿を根拠とし、教育活動の「質」を高める学校経営 今年度の重点 1 確かな学力をはぐくむ 「主体的・対話的で深い学び」に向かう学習指導／児童の姿を根拠とする授業改善 2 豊かな心をはぐくむ 道徳的な課題を自分自身の問題と捉え、自分自身と向き合う道徳科の授業／かかわりの中で自分への自信をもたせる教育活動 3 健やかな体をはぐくむ 新体力テストを踏まえた授業改善／基本的な生活習慣の定着と健康安全の保持増進 4 特別支援教育を進める 特別支援教育への理解と児童に対する適切な指導及び必要な支援／推進体制の整備 5 生徒指導の機能を生かす 人間関係を築き、共感的なかかわりを基盤とする生徒指導共感的なかかわりを基盤とする生徒指導／いじめ・不登校等を生まない風土の醸成 6 家庭・地域とつながる 地域に学ぶ学習活動／家庭・地域との連携・協力／教育活動の公開 7 学校力を高める 専門性の向上／PDCAサイクルが機能する教育活動／組織の活性化／法令遵守の徹底	

登別市立富岸小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り清掃（全学年） ・世代間交流（1年） ・畑の先生との栽培活動（2年） ・キウシト湿原での活動（3年・特支） ・アイヌ文化・ウポポイ見学（4年） ・スキー指導（5・6年） ・あったか富岸小運動（全学年） ・富岸小まつり（11月） ・親子もちまき会（1月） ・地域及びPTAによる登下校安全指導 ・図書ボランティア活動
創立年月日	明治29年5月1日	研究主題 『読みの力を身に付け、豊かに表現する子の育成』 ～「言葉による見方・考え方」を働かせる 言語活動の充実を通して～
所在地	登別市富岸町2丁目17番地4	
電話・FAX	TEL 86-6303 Fax 86-0904	
校長名	小野島 晶	
教頭名	穂山 豊希	
児童生徒数	364名	
学級数	普通12 特別3 計15学級	学校沿革の略歴
職員数	23名	明治 29. 5 室蘭郡私立チリ別小学校分校として創立 33. 5 幌別郡公立富岸簡易教習所と改修独立 大正 5. 3 鷺別小学校に吸収合併 11. 4 鷺別小学校付属富岸特別教授場として復校 昭和 8. 4 富岸尋常小学校として独立 36. 校舎新築移転 51. 3 体育館新築落成 53. 4 校舎新築移転、通学区変更 60.10 開校90周年記念式典 63. 9 カナダロバートランドル小と姉妹校提携 平成 2.10 全道学級経営研究会・登別大会開催 3. 3 学童ボランティア活動普及事業協力校指定 3. 4 文部省「奉仕等体験学習研究推進指定校」 5. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 11 PTAが全国表彰を受賞 7.10 開校100周年記念式典 9.12 北海道花いっぱい運動奨励賞を受賞 16.11 文科省「学力向上フロンティアスクール」公開研開催 17. 2 胆振教育局教育実践表彰受賞 18. 2 北海道教育実践表彰受賞 19.11 登別市教育実践奨励校公開研究会開催 24. 8 校舎屋上・理科室床改修工事完了 26. 1 体育館耐震化改修工事完了 27.11 登別市教育実践研究奨励校 登別市・白老町地域連携研究主体校 胆振管内小中学校教育実践研究奨励校 開校120周年記念公開研究会開催 30. 4 登別市教育実践奨励校 30. 7 校舎耐震・外壁・屋上防水工事開始 30.10 校舎屋上防水工事完了 30.12 校舎耐震・外壁工事完了 令和 元.11 登別市教育実践奨励校公開研究会開催
敷地面積	29,891m ²	
学校教育目標	○思いやりのある子 ○深く考える子 ○からだを鍛える子	
学校経営方針・今年度の重点	〈学校経営の方針〉 子どもが伸びる学校を目指して ・安心安全な学校生活 自己肯定感と有用感を育む学級経営と積極的な生徒指導 ・学力保障 「分かった」「できた」「見付けた」「使えた」の実感のある学習指導（授業） ・元気な毎日、健康な身体 日常的な望ましい生活習慣、生活態度の確立 〈学校経営の指針〉 知力・心力・体力を一体とした子どもの「総合的な学力」形成 〈目指す学校像〉 『つなげる（連動）』と『掘り下げる（深化）』 〈経営の重点〉 ・教職員の相互理解と協力による共同体制確立と学校経営参画 ・充実した教育課程の編成・実施・評価・改善 ・支持的風土、共感的理解に基づき安心・安全を創り出す学級・学年経営 ・教育環境の整備 ・実践的な研修活動の充実 ・危機的意識を伴う健康・安全指導の徹底 ・学校備品、諸経理の有効な運用 ・家庭、地域、関係機関との連携	

登別市立登別小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の協力を得たふるさと農園実施 ・児童会による、いじめ撲滅のための、一委員会一取組の活動 ・外国語活動、国際理解教育の推進 ・図書ボランティアによる読み聞かせ ・すもう学習の実施 ・マーチングバンド（OMB）による活動 ・学校裏山、グラウンドを利用したスキー学習 ・地域のよさ、歴史、伝統、文化、観光、アイヌについて学ぶ、ふるさと教育
創立年月日	明治25年8月10日	研究主題 言葉のよさを認識し、共生・協働・表現・継続しながら高め合う子どもの育成 ～国語科における、個別最適な学習の充実を目指して～
所在地	登別市登別本町3丁目25番地2	
電話・FAX	TEL 83-1014 Fax 83-1423	
校長名	松田周一	
教頭名	林毅年	学校沿革の略歴 明治 25. 8 幌別尋常小学校登別分校として創立 28. 4 公立登別尋常小学校として改称・独立 38. 4 登別温泉簡易教育場が本校より独立 44. 2 蘭法華（現富浦地区）特別教授所開設 大正 2. 2 蘭法華特別教授場を本校に合併 9. 3 高等小学校併置認可 昭和 16. 4 登別国民学校と改称 22. 4 登別小学校と改称 27. 11 胆振管内道徳研究会開催 36. 9 開校70周年記念式典開催 45. 鉄筋コンクリート一線校舎新築 46. 鉄筋コンクリート二線校舎新築 53. 8 文部省指定学校歯科保健活動開始 58. 10 文部省指定1年次道徳研究会開催 61. 6 家庭教育学級開設 62. 7 土俵完成、土俵開き、相撲大会（9月） 平成 元. 10 第一期校舎改修工事完了 2. 10 第二期校舎改修工事完了 3. 10 開校100周年記念式典開催 11. 2 コンピュータルーム新設 14. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 15. 10 北海道歯科保健優良校表彰STV賞受賞 18. 4 コミュニティー・スクール推進事業調査研究校を受理 18. 10 北海道歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 19. 4 登別温泉小学校との校区一体化 22. 9 すもう飛翔櫓再建落成式 23. 11 開校120周年公開研究会の実施 24. 10 二線校舎一階に「登別児童クラブ」開設 25. 7 耐震化のため体育館改修工事（～11月） 9 地震・津波想定三校合同避難訓練 26. 7 飛翔櫓補修 10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27. 10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 27. 11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会 28. 10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 29. 10 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 11 登別市教育実践研究奨励校公開研究会 30. 11 北海道警察音楽隊による演奏会開催 12 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 令和 元. 7 校舎耐震補強・外壁改修・屋根改修工事開始 元. 10 全日本歯科保険優良校表彰奨励賞受賞 2. 3 校舎耐震補強・外壁改修工事完了 3. 2 一人1台PC端末導入 10 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞 令和2. 3年度登別市教育実践奨励校公開授業開催 北海道学校歯科保健優良校表彰優秀賞受賞 全日本歯科保健優良校表彰奨励賞受賞
敷地面積	37,173m ²	
児童生徒数	133名	
学級数	普通6 特別3 計9学級	
職員数	15名	
学校教育目標	丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子 ○よく考える子（知） ○からだをきたえる子（体） ○なかよく助け合う子（徳） ○がんばりぬく子（意）	
学校経営方針	学校経営方針 「子供たち・教師・保護者が『あす』を豊かにすることのできる学校づくり」 ～地域と共に課題を解決する学校経営を通して～ 学校経営のKeyword【最重点項目】 共生・協働・表現・継続	
学校経営方針・今年度の重点	共生 ○合理的配慮のPDCAサイクルの確立 ○教室環境のユニバーサルデザイン化 ○ジェンダーフリー ～学校にいる全ての人にとって居心地のよい場～ 協働 ○働き方改革の推進 ○一人一台端末を活用した授業力向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実～ 表現 ○地域と共にある特色のある教育活動の改善・充実 ○持続可能な特色ある教育活動（行事）の設定 ○総合的な学習の時間の充実 ～アウトプットを意識したインプット～ 継続 ○確かな学力の向上を目指した授業改善 ○保護者と連携した家庭学習習慣定着 ○司書と連携した読書活動の推進 ○体育の時間の充実と体力づくり ○歯科医師と連携した歯科指導 ～「できる」ようになるために「続ける」～	

登別市立幌別東小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域・保護者が一体となって子どもを育むコミュニティ・スクール ・校外班による校区の清掃活動 ・郷土の文化や伝統を生かす「駒踊り」の伝承 ・リングプルの回収を通したりサイクル活動 ・朝学習チャレンジタイムの実施（毎朝10分） ・朝読書の励行（毎朝10分） ・年4回土曜授業の実施 ・全校児童縦割班による日常的な清掃活動
研究主題 考える楽しさを育み、進んで表現する子どもの育成 ～思考力・表現力の充実を目指した算数科の授業改善～		
創立年月日	昭和45年4月1日	
所在地	登別市幌別町8丁目16番地1	
電話・FAX	TEL 85-3532 Fax 85-9053	
校長名	猪子 雅 司	学 校 沿 革 の 略 歴 昭和 45. 4 幌別小学校から分離開校する。 10 屋内体育館完成 11 開校落成式 46. 5 特殊学級開設認可 47. 8 屋外プール完成 49. 2 胆振管内教育振興実践表彰受賞 51. 10 校舎前庭に交通公園完成 53. 2 北海道教育実践表彰受賞 3 登別市教育文化貢献表彰受賞 11 全国表彰「博報賞」受賞 54. 10 開校10周年記念式典 56. 3 北海道教育実践論文全文掲載 59. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による公開研究会開催 63. 10 教育大附属函館小学校と共同研究による道徳公開研究会開催 63. 11 パイプ建設に伴い、学校プール移転新設平成 元. 12 開校20周年記念式典挙行 文部省指定道徳共同推進校公開研究会 6. 1 文部省主催教育課程全国研究発表 9. 8 体育館暖房施設設置 11. 9 市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞 15. 2 児童・生徒ボランティア活動普及事業実践発表 12 全道「花いっぱいコンクール」優秀賞受賞 18. 2 胆振管内教育実践表彰受賞 20. 2 北海道教育実践表彰受賞 23. 10 放課後子ども教室「はまなすメート」開設 25. 7 国道側フェンス改修工事(災害復旧) 26. 4 学校運営協議会設置 10 鉄南地区地域合同避難訓練に土曜授業として参加する。 28. 12 郷土芸能「幌別駒おどり」幌別地区市民演芸会にて全校発表 令和 元. 12 開校50周年記念式典挙行 2. 8 校舎耐震補強工事開始 3. 1 校舎耐震補強工事完了 3. 2 校内ネットワーク工事 4. 3 登別市ネットワーク工事(C4th)利用開始
教頭名	藤井 弘 道	
児童生徒数	54名	
学級数	普通4 特別2 計6学級	
職員数	11名	
敷地面積	27,897m ²	
学校教育目標	○心身ともに健康な子どもになります。 ○よく考える子どもになります。 ○一生懸命やりぬく子どもになります。 ○みんな仲良くする子どもになります。	
学校経営方針・今年度の重点	学校課題 ～子どもたちの健やかな成長と地域とともにある学校づくり～ 【学校経営方針】 方針1「確かな学力の向上」 重点1：教育課程の確実な推進 重点2：学力の実態把握 重点3：個別最適な学びの提供と協働的な学びの実現 重点4：基礎基本の定着 重点5：授業改善の取組 重点6：ICT機器の日常的な活用と学びの場の工夫・整備 重点7：学習習慣の確立 重点8：特別支援教育の充実 方針2「豊かな心と健やかな体の育成」 重点1：道徳教育の充実 重点2：読書活動の充実 重点3：自分も他人も尊重する心を育てる生徒指導の充実 重点4：基本的生活習慣の確立 重点5：体育科授業の改善による体力づくりの工夫と推進 方針3「信頼される学校づくり」 重点1：安全・安心な学校づくり 重点2：学校力・教師力の向上 重点3：開かれた学校づくり 重点4：幼保小、小小、小中連携の強化とキャリア教育の充実	

登別市立若草小学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登別中学校区における小中一貫教育の推進 ・ 自動車学校等と連携した交通安全教室 ・ 年間を通じ、短縄による児童の体力づくり ・ なかよし会によるリングプル収集 ・ 読書活動の推進と「読書の木」の取組 ・ 土曜授業の実施（年4回） ・ 学校運営協議会とPTAが一体となった若草小学校コミュニティ・スクール ・ ふれあい農園・教材園を活用した栽培活動 ・ 教育委員会と連携した鬼っ子算数教室の実施 ・ 町内会との合同津波避難訓練・下校指導 ・ 外部講師による全学年での食育授業の実施 ・ 外部講師による福祉の体験学習 ・ HPでの教育活動の情報発信
創立年月日	昭和46年4月1日	研究主題 『自ら考え、共に学び合う子の育成』 ～教えて考えさせる算数科の学習を通して～ 1 どのように学ぶのか分かり、主体的に学習に取り組む子ども 2 人との関わりを通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができる子ども
所在地	登別市若草町1丁目1番地2	
電話・FAX	TEL 86-7513 Fax 86-5440	
校長名	大熊 龍也	
教頭名	菅野 直樹	
児童生徒数	293名	学校沿革の略歴 昭和 46. 4 若草小学校創立 5 父母と先生の会発足 10 屋内体育館完成 11 開校落成記念式典挙行 48. 8 プール完成 54. 3 胆振管内教育実践表彰を受ける。 55. 4 特殊学級認可 55.10 開校10周年記念式典挙行 56. 8 大雨により被害を受ける。 58. 3 新校舎増築完成 平成 10 開校20周年記念式典挙行 7. 8 白石市まめ記者訪問事業実施 9. 8 3階和室新設 11. 3 情緒障害児学級認可 12.11 開校30周年記念式典挙行 13. 1 コンピュータインターネット配線完了 14. 3 校舎大規模改修工事着工 15.12 校舎大規模改修第1期工事終了 16.10 校舎大規模改修第2期工事終了 17. 1 校舎全面使用開始 17. 3 特別支援学級2学級認可 22. 6 開校40周年記念運動会挙行 23. 3 東日本大震災への募金活動(なかよし会) 26. 6 学校運営協議会(コミュニティスクール)発足 26.11 平成25・26年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校指定 平成25・26年度登別市教育実践研究奨励校指定 平成27・28年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 平成29・30年度登別市教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 平成29・30年度胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校指定(道徳科研究) 平成30年度北海道道徳教育推進校事業推進校における授業公開・実践発表 令和 元.12 標準学力調査(CRT)実施 2. 2 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業(3月24日まで) 2. 3 分散登校実施(1～5年3回、6年2回) 2. 4 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業(5月17日まで) 2. 5 分散登校実施(5月31日まで) 3. 1 クロームブック搬入 3. 3 保健室エアコン設置 3.10 開校50周年記念看板設置 4. 1 令和2・3年度登別市教育実践研究奨励校指定 令和2・3年度胆振研究所研究奨励校指定 開校50周年記念公開研究会(第19回) 4.12 開校50周年記念式典(感染拡大防止のため中止) 5. 8 白石市豆記者交流事業実施(児童3名訪問)
学級数	普通11 特別支援3 計14学級	
職員数	33名	
敷地面積	25,707m ²	
学校教育目標	知徳体の調和のとれた 人間性豊かな子どもをはぐくむ ○たくましい子……やる気(創造的態度) ○考える子……やる力(創造力) ○健康な子……やる人(創造的人格)	
学校経営方針・今年度の重点	【方針】 ～保護者・地域との共育と中学校区との連携により笑顔・わくわく・やさしいっばい+αでウェルビーイングな学校づくりを目指して～ 【αとは、コロナを超えて再構築すること】 ◇目指す学校像 4つのW(わくわく)のある学校 +αウェルビーイング子どもにとって わくわく する魅力ある学校(成長の実感) 保護者にとって わくわく する魅力ある学校(安心感) 地域にとって わくわく する魅力ある学校(連帯感) 教職員にとって わくわく する魅力ある学校(充実感) ◇目指す子ども像 4つのW(わ) +αレジリエンスわかるまで 考えを伝え合い、夢中で学習や活動に取り組む子(知) わかさいっぱい 元氣よく心と体を磨き自分を輝かせる子(体) わをたいせつに 思いやりをもち、みんなで心と心をつなげる子(徳) われをたいせつに 自分を大切にできる子(徳) ◇教師の基本姿勢として(授業) 4つのW(わ) +αデジタルとアナログの融合 わくわくどきどき 目標が明確で、見通しをもたせる授業 わかりやすく 問題解決的な授業 わいわいしながら 練り合い高め合う授業 わかるまで 定着・まとめを確実に挙行授業 ◇教師の基本姿勢として(組織) 4つのW(4WD) +α心理的安全性 フットワーク 報告連絡相談 前始末 率先垂範 ネットワーク 迅速誠実丁寧 協働 チームワーク 共通理解・共通指導 凡事徹底 美点凝視 ロードワーク 学び続ける姿勢 【教育活動の重点】 重点 1: 確かな学力の定着 重点 2: 豊かな心の育成 重点 3: 健やかな体の育成 重点 4: 特別支援教育の充実 重点 5: 他校種・地域と連携した教育活動の充実 特別重点: 安心・安全な学校 【経営活動の重点】 重点 0: 児童と向き合うための働き方改革の推進 重点01: 教職員の資質向上	

登別市立青葉小学校

		特 色 ・ふれあい農園による栽培活動 ・リングプルなどの回収活動 あ る 教 育 活 動 ・キウシト湿原を活用した環境学習 ・朝読書、ブックサポーターによる読み聞かせ ・外部講師によるクラブ活動 ・地域人材を活用した放課後学習サポート ・世代間交流などの豊かな体験活動 ・地域の牧場斜面を活用した冬の雪遊び
創 立 年 月 日 昭和52年4月1日 所 在 地 登別市青葉町3番地3 電 話 ・ F A X Tel 85-1477 Fax 85-1249 校 長 名 上 渡 秀 一 教 頭 名 服 部 拓 也 児 童 生 徒 数 252名 学 級 数 通常学級：12 特支学級：2 計14学級 職 員 数 20名 敷 地 面 積 34,626m ²		研 究 主 題 どの子にも『わかる喜び』『学ぶ楽しさ』を味わわせる算数科指導のあり方
学 校 沿 革 の 略 歴 昭和 52. 4 幌別西小学校より分離創立 10 校舎落成記念式典 55. 5 グランドに桜苗木を植樹 9 「青葉の森」開き 57. 7 埋蔵文化財発掘体験学習 61. 7 開校10周年記念式典 62.12 青葉スケートリンク第1回造成活動開始平成 元. 3 ギネス「長縄跳び90人」世界新記録樹立 6. 3 胆振管内教育実践表彰受賞 8.10 開校20周年記念式典 11. 8 コンピュータ室完成（14台設置） 12. 9 市民憲章花壇コンクール最優秀賞受賞 13.11 インターネット光ケーブル引込み校内LAN工事完成 16. 3 北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞 4 特別支援学級（情緒障害）開設 18. 3 北海道PTA広報誌コンクール審査員特別賞受賞 12 開校30周年記念式典 21. 1 児童用トイレ完全洋式化 22.10 体育館耐震化改修工事完了 24. 9 東非常階段全面改修工事完了 25. 8 屋上フェンス災害復旧工事完了 26. 4 学校運営協議会設置（コミュニティ・スクール） 8 鉄棒新設工事完了 27.11 屋上防水・耐震改修工事完了 12 保健室、職員・児童玄関改修工事完了 28. 1 校舎外壁工事完了 3 西非常階段、校長室、PTA会議室耐震壁工事完了 4 視聴覚室耐震壁工事完了 6 ふれあい坂舗装補修工事完了 8 図書室・家庭科室・2の2耐震壁工事完了 11 開校40周年を祝う会 職員室・放送室・印刷室耐震壁工事完了 29. 2 4の1耐震壁工事完了 青葉スケートリンク30周年記念祝賀会 3 階段転落防止ネット改修工事完了 30. 1 スキー学習（5,6年生） 11 グラウンドの亀裂修復工事完了 令和 元. 7 姉妹都市交流「ふるさと豆記者」白石市へ 3. 8 ふれあい坂補修工事完了		
学 校 教 育 目 標 『豊かな人間性をめざし心身ともに健康で 自主的・創造的な子どもを育成する』 ○強い子ども（体） 心身共に健康で頑張りぬく子 ○明るい子ども（徳） 情操豊かで助け合いはげまし合う子 ○考える子ども（知） 進んで学び、きり拓いていく子	学 校 経 営 方 針 ・ 今 年 度 の 重 点 「自分と他者を大切にする子の育成」 ～一人一人の思いや願いを大切にされた教育活動の推進～ 経営上の重点 1 学校教育目標・重点目標の具現化の推進と協働体制の確立 2 社会に開かれた教育課程の実施と主体的な学びを目指す指導の充実 3 自立と共生を目指す豊かな心を育む教育活動の創造と推進 4 専門職としての教員の資質向上を図る研修の充実 5 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進 6 接続を意識した異校種・同校種間連携の推進 7 学校における働き方改革の推進 指導上の重点 1 よさを生かし、主体的に学ぶ子の育成 2 豊かな心を持ち、思いやりのあるこの育成 3 強い心と体を目指し、進んできたえる子の育成 4 家庭・地域等との連携を図った教育活動の充実	

登別市立幌別中学校

		特色 ・やりとり帳の活用 ・地域との合同避難訓練〔今年度は中止〕 ・図書ボランティアによる本の整理と貸し出し ・土曜授業 ・小中一貫教育の推進 ・DBA集会 ・習熟度別学習、放課後学習の実施
創立年月日	昭和22年5月1日	研究主題 ICTを活用した主体的な学びの実現を目指して～生徒・教師が学習を通じた変容を共有できる授業・評価改善～
所在地	登別市千歳町3丁目1番地3	
電話・FAX	TEL 85-3111 Fax 85-3112	
校長名	瀧澤 義 守	
教頭名	武 田 成 永	学 校 沿 革 の 略 歴 昭和 22. 5 幌別小学校の校舎一部を借り、設置認可 26. 7 千歳町132番地（現在地）に新校舎落成 28. 10 校舎前グラント新設 32. 9 開校10周年記念式典 39. 5 屋内体育館落成 32学級 1,450名 42. 4 特殊学級認可 49. 4 西陵中学校分離 52. 10 開校30周年記念式典 59. 10 文部省指定道徳教育協同研究会開催 60. 11 文部省指定生徒指導研究会開催 62. 11 校舎改修第1期工事完成 63. 8 校舎改修工事第2期工事完成 平成 2. 9 文部省指定道徳研究会開催 3. 2 胆振管内教育実践表彰を受賞 4. 10 「社会を明るくする運動」法務大臣より感謝状を受ける。 7. 2 北海道教育実践表彰受賞 8. 2 新屋内体育館竣工 9. 11 開校50周年記念式典 13. 10 胆振おやじサミットを主催 15. 8 「おやじの会」日本PTA全国協議会表彰及び北海道PTA連合会表彰を受賞 16. 11 韓国教育視察団来校 26. 10 文科省 土曜授業推進事業指定 令和 3. 3 校舎耐震化工事終了
児童生徒数	148名	
学級数	普通 6 特別 2 計 8 学級	
職員数	16名	
敷地面積	37,381m ²	
学校教育目標	○体が丈夫で、進んで働く人 ○はきはきと行動し、最後までやりぬく人 ○豊かな心で、新しいものを生み出せる人 ○心のこもったことばづかいや行いのできる人 ○互いに信じ合い、みんなの役に立つ人	
学校経営方針・今年度の重点	目指す学校像 <最上位目標> 「明るい笑顔で 将来の夢の実現に向け 自分の力で歩む学校」 <経営・指導の最重点> 1 教育目標の実現を目指した組織的な取組 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 3 発達を支える生徒指導の充実 <具体的な手立て> 1 学力向上、校内研修の充実 2 道徳教育 3 特別活動 4 総合的な学習の時間 5 健康・安全教育 6 特別支援教育 7 いじめの根絶、不登校対応 <評価指標：保護者、生徒アンケート、授業アンケート> 1 「明るい笑顔」 ◎学校生活は楽しい～ 90% ○先生と気軽に相談できる～ 80% ○挨拶、礼儀、言葉遣い～ 95% 2 「夢の実現」 ○目標の設定（授ア）～ 90% ◎振り返り（授ア）～ 90% ○授業が分かりやすい～ 90% ○家庭学習への取組～ 80% 3 「自分の力で」 ○ネット、スマホのルール～ 80% ◎やりとり帳計画振り返り 90% ○早寝、早起き、朝ご飯～ 90%	

登別市立鷺別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ悩みアンケートを毎月実施し、教育相談を通じた早期発見と早期対応を徹底する。 ・チームいちばん星を招いた全校道徳や地域人材の積極的な授業への活用 ・地域ボランティアによる下校時の安全パトロール（学校運営協議会との協働体制） ・鷺別中学校校区小中一貫教育（校区小学校との連携事業）の充実 ・本校卒業生、地元専門学校協力によるキャリア教育の充実 ・年間4回の土曜授業（保護者公開） ・ICT、一人一台端末を活用した授業や各種アンケート、健康調査等の実施 ・複数顧問による部活動指導 									
<table border="1"> <tr> <td>創立年月日</td> <td>昭和22年5月1日</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>登別市鷺別町4丁目36番地6</td> </tr> <tr> <td>電話・FAX</td> <td>TEL 86-7950 Fax 86-7961</td> </tr> <tr> <td>校長名</td> <td>横山 康彦</td> </tr> <tr> <td>教頭名</td> <td>小林 孝信</td> </tr> </table>	創立年月日	昭和22年5月1日	所在地	登別市鷺別町4丁目36番地6	電話・FAX	TEL 86-7950 Fax 86-7961	校長名	横山 康彦	教頭名	小林 孝信	研究主題 <p>「学び合い」を通して、受け入れ合い、支え合い、高め合う生徒の育成 ～協働的な学びの場面設定を通して～</p>
創立年月日	昭和22年5月1日										
所在地	登別市鷺別町4丁目36番地6										
電話・FAX	TEL 86-7950 Fax 86-7961										
校長名	横山 康彦										
教頭名	小林 孝信										
<table border="1"> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>270名</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>普通9 特別3 計12学級</td> </tr> <tr> <td>職員数</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>28,904m²</td> </tr> </table>	児童生徒数	270名	学級数	普通9 特別3 計12学級	職員数	28名	敷地面積	28,904m ²	学校沿革の略歴		
児童生徒数	270名										
学級数	普通9 特別3 計12学級										
職員数	28名										
敷地面積	28,904m ²										
学校教育目標 <ul style="list-style-type: none"> ○健康で明るい人 ○情操豊かな人 ○勤労意欲の強い人 ○真理を愛する人 ○礼儀正しい人 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 22.5 鷺別小学校の一部を借り、設置認可 24.12 新校舎（現在地）完成 25.1 新校舎使用開始、新校舎落成式 32.5 開校10周年記念式典 38.8 新校舎第1期工事完成 41.8 学校プール完成 42.12 新校舎完成 鉄筋3階建て 45.10 屋内体育館完成 52.1 管理棟新築完成 9 開校30周年記念式典 54.2 視聴覚教室改修工事完成 58.4 緑陽中学校へ一部生徒分離移籍 62.8 プール撤去 平成 5.6 コンピュータ室完成 10 和室（潮騒ルーム）完成 9.10 開校50周年記念式典 11 胆振教育局指定公開研究会開催 12.4 教育相談室電話設置 15.10 税の作文コンクール学校賞受賞 17.10 2.3校舎FFストーブ取替え工事完成 18.3 校舎のバリアフリー化完成 24.8 3線校舎女子トイレバリアフリー化 27.3 校舎耐震改修工事完成 28.11 胆振管内小・中学校教育実践研究奨励校教育実践発表会 令和 2.2 登別市教育実践研究奨励校研究会 4.1 北海道放送主催中学生作文コンクール学校特別賞 4.10 登別市教育実践研究奨励校研究会 5.1 全国いじめ問題子どもサミット出席 5.3 体育館ステージステップ設置（同窓会寄贈） 										
学校経営方針 <p>【校区で目指す15歳の姿】 受け入れ合い、支え合い、高め合う生徒の育成</p> <p>【学校経営の理念】 『進取の気性に富み、生徒・教員がともに学び続ける学校』～自立・協働・創造を基軸としたウェル・ビーイングの実現～</p> <p>【経営・指導の重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）個別最適な学びと協働的な学びを効率よく取り入れ、ICT及び端末を積極的に活用した授業改善 （2）心理的安全性が保障され、安心して発言・行動することができる環境づくり （3）不登校生徒及び保護者に対する支援の充実 （4）適材適所におけるミドルリーダーの育成 （5）情報活用能力育成に向けた教育課程の編成・改善 （6）働き方改革・業務改善の推進 											

登別市立登別中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」の一環として地獄まつりへの参加、郷土芸能「熊舞」「鬼みこし」の取組、登別市観光交流センター「ヌブル」での事前公演活動 ・全校生徒による町内クリーン作戦 ・幼保小中連携（防災、キャリア教育等） ・地域（町内会）とPTAによるあいさつ一声運動交通安全指導、防犯巡回 ・地域の祭典「わくわく広場のぼりべつ」への協力 ・PTAによる卒業記念「餅つき集会」 																	
<table border="1"> <tr> <td>創立年月日</td> <td>昭和22年5月1日</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>登別市登別町1丁目1番地1</td> </tr> <tr> <td>電話・FAX</td> <td>TEL 83-1029 Fax 83-1929</td> </tr> <tr> <td>校長名</td> <td>毛利憲二</td> </tr> <tr> <td>教頭名</td> <td>安藤裕</td> </tr> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>59名</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>普通3 特別2 計5学級</td> </tr> <tr> <td>職員数</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>敷地面積</td> <td>30,467m²</td> </tr> </table>	創立年月日	昭和22年5月1日	所在地	登別市登別町1丁目1番地1	電話・FAX	TEL 83-1029 Fax 83-1929	校長名	毛利憲二	教頭名	安藤裕	児童生徒数	59名	学級数	普通3 特別2 計5学級	職員数	14名	敷地面積	30,467m ²	研究主題 「日々の授業の質的改善」 ～主体性や調整力を育む取組を通して～
創立年月日	昭和22年5月1日																		
所在地	登別市登別町1丁目1番地1																		
電話・FAX	TEL 83-1029 Fax 83-1929																		
校長名	毛利憲二																		
教頭名	安藤裕																		
児童生徒数	59名																		
学級数	普通3 特別2 計5学級																		
職員数	14名																		
敷地面積	30,467m ²																		
学校教育目標 ○すすんで学び 正しく判断する ○命を大切にし 心身を鍛える ○思いやりをもち 厳しさに耐える 校訓：清く 明るく 大らかに	学校沿革の略歴 昭和 22.5 設置認可 開校式 24.5 新校舎落成（木造独立校舎） 30.7 体育館落成 32.9 開校10周年記念式典 38.7 新校舎落成（鉄筋コンクリート2階建） 42.10 開校20周年記念式典 45.2 教育実践優良校として道教委表彰受賞 53.9 文部省指定生徒指導研究推進校として文部省より感謝状を受ける。 57.11 胆振教育局指定教育課程研究会開催 59.10 文部省指定「道徳教育協同研究推進校」として研究会開催 63.10 全道道徳研究会登別大会授業公開 平成 3.11 校舎大規模改造工事平成3年度分終了 4.11 校舎大規模改造工事平成4年度分終了 6.11 体育館大規模改造工事完了 9.11 開校50周年記念式典 14.6 漁港清掃で北海道漁港漁場協会より表彰 15.9 温泉中学校との交流を開始 16.4 温泉中学校との統合による教育活動開始 18.11 市教育実践奨励校公開研究会 23.10 体育館耐震化工事完了 26.4 コミュニティスクール設置 28.7 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 28.7 ニッセイ財団より熊舞衣装助成を受ける 29.10 平秀里様より吹奏楽部に楽器の寄贈 30.1 校舎耐震改修工事完成 令和 2.12 タブレットPC用キャビネット設置 3.2 タブレットPC搬入 3.10 市教育実践奨励校公開研究会 5.6 子ども熊舞保存会の活動が国際ソロプチミスト登別支部から認証を受け、スクラブに入会																		
学校経営方針 【学校経営基本方針】 「子供の命を守り、社会に出たときに活躍できる生徒の育成」 【本年度の重点教育目標】～目指す生徒の姿～ 「心身ともに健康で、夢の実気に向けて粘り強く努力し続ける生徒」 【目指す学校像】 ・安全安心な学校 ・楽しく活気のある学校 ・地域に信頼される学校 【目指す生徒像】 ・自分の考えを深め、表現できる生徒 ・自他を大切にし、思いやりを持つ生徒 ・何事にも挑戦し、やり抜く生徒 【目指す教師像】 ・経営参画意識を持ち、組織として協働する教師 ・生徒とともに汗を流す教師 ・教職に対する強い情熱を持ち、生徒の力を引き出せる教師																			

登別市立西陵中学校

		特色 ・総合的な学習の時間【1年】郷土学習【2年】生き方学習【3年】創作活動 ・地域・PTA合同の交通安全挨拶運動 ・外部人材の活用(誕生学、携帯・スマホ講座等) ・小中一貫教育推進協議会(年3回)の開催 ・小中地域合同避難訓練 ・PTA主催による合格祈願「餅」配布 ・読書活動の推進(ビブリオバトルの実施)
創立年月日	昭和49年4月1日	研究主題 「主体的に学びに向かい、自己の力を高める生徒の育成」 ～学びを実感させる学習過程の工夫と、自立した学習習慣の定着を通して～
所在地	登別市片倉町5丁目12番地1	
電話・FAX	TEL 85-5041 Fax 85-5085	
校長名	中島英治	
教頭名	浅田慎市	
児童生徒数	117名	
学級数	普通4 特別2 計6学級	学校沿革の略歴
職員数	14名	昭和
敷地面積	22,869m ²	49.4 設立開校
学 校 教 育 目 標	「英知・健康・情操・意志」 ○正しい判断力と豊かな知性をもつ人 ○健康な体とたくましい行動力をもつ人 ○思いやりの心と寛い友情をもつ人 ○ねばり強い根性とくじけない心をもつ人	12 体育館一部完成
	学 校 経 営 方 針	<重点教育目標> 「共に学び 高め合うこと」を意識した教育活動の推進 【目指す生徒像】 自ら考え、自ら判断し、自ら行動する生徒 【目指す学校像】 笑顔と活気にあふれる学校 <経営上の重点> ・1 組織的な学校運営と業務の効率化を意識した働き方改革の推進 2 創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進 3 学年・学級経営、特別支援教育、生徒指導の充実 4 教師の専門性や指導力を高める研究・研修の充実 5 家庭や地域、関係機関と連携した「地域とともにある学校づくり」の推進 6 危機管理体制の強化と危機管理意識の高揚

登別市立緑陽中学校

		特色ある教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主体で取り組むSDGs活動（いじめを許さない生徒の活動） ・地域や小学校と連携した防災活動 ・生徒会、学年委員会を中心とした生活向上活動 ・全校コンクール「緑中王」による学習意欲の向上 ・地域と協働して行う職業体験学習 ・縦割り活動による学校祭の実施
研究主題		見方・考え方を働かせ、自分の考えを深め、表現する生徒の育成 ～読解力、思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫を通して～
創立年月日	昭和58年4月1日	学校沿革の略歴
所在地	登別市富岸町1丁目11番地1	
電話・FAX	TEL 85-5409 Fax 85-5433	
校長名	野崎 均	
教頭名	内山 勇一	
児童生徒数	293名	
学級数	普通9 特別3 計12学級	
職員数	32名	
敷地面積	52,240m ²	
教育目標	○豊かな知性を育て真理を求める人 ○美しい心情を育て思いやりのある人 ○強い意思を育て責任をもってやり抜く人 ○健康な心と体を育て明るくたくましい人	
学校経営方針・今年度の重点	【目指す生徒像】 ①自ら考え・自ら動く生徒 ②人を支える生徒 ③諦めない生徒 【今年度アプローチポイント】 ①夢や目標をもち努力を続ける力の育成 ②規則正しい生活を送る力の育成 ③自分のよさに気づき、伸ばす力の育成 【指導の重点】 (1)確かな学力の育成 A 基礎的な知識を身につける B 他者とのかかわりの中で高め合い深め合う C 学んだことを次の課題や生活の場で生かす (2)豊かな心の育成 D 基本的な生活習慣を身につける E お互いの考えを深く理解し合う F 仲間と協力してよりよい生活を築く (3)健やかな体の育成 G 健康や命を守る知識・技能を身につける H 仲間と力を合わせて健康に過ごす I スポーツマンシップを日常に生かす 【経営の重点】 (1)学習指導 J 個別最適な学びと協働的な学びを実現する (2)生徒指導 K 生徒の心に寄り添った生徒指導を実現する (3)危機管理 L 信頼される学校を実現する	昭和 52. 校地決定 54. 校地造成 57. 校舎完成、体育館完成 58. 4 設立開校 11 落成記念式典 平成 4.11 開校10周年記念式典 7.9 コンピュータ21台配置 10.8 全教室温風ストーブ設置 11.4 特殊学級（知的障害）開設 6 「大西左友吏」ちゃん文庫開設 12.8 コンピュータ20台更新・校内LAN設置 13.11 かんぼ作文コンクール道知事賞受賞 14.11 開校20周年記念式典 15.11 かんぼ作文コンクール北海道支社長賞受賞 16.4 特殊学級（肢体不自由）開設 11 かんぼ作文コンクール北海道支社長賞受賞 17.10 第4回北海道中学校壁新聞コンクール準大賞受賞 12 税のポスター北海道教育委員会教育長賞受賞 18.11 第5回道央地区中学校壁新聞コンクール最優秀賞・優秀賞2年連続受賞 19.11 道吹奏楽コンクール銀賞 22.4 図書ボランティア活動開始 24.4 ボランティア部 第16回ボランティアスピリットアワード コミュニティ賞受賞 25.12 校舎2階トイレ様式化、障害者用トイレ設置 26.8 体育館暖房機器設置 27.8 バドミントン部全国大会出場 28.8 男子陸上部100m×4R全国大会出場 29.10 登別市教育実践奨励校公開研究会 30.8 バドミントン部全国大会出場 30.10 人権作文札幌地区大会奨励 令和 元.8 バドミントン部全国大会出場 3.8 バドミントン部・陸上部全国大会出場 4.8 ソフトテニス（個）・陸上（個）・柔道（個）中体連全国大会出場 5.8 陸上（個）中体連全国大会出場

北海道登別青嶺高等学校

		スクール・ポリシー（※続き） (3) 総合的な探究の時間や特別活動を通して、生徒の主体性を育む実践的な活動の充実に努める 3 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） 大学進学や資格取得など明確な目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組む生徒や、部活動、生徒会活動、ボランティア活動に熱意を持って取り組む生徒を求める。
特色ある教育活動 ○ 6期制による基礎学力の積み上げと自己実現 ○ 進路サポーター制による個に応じた進路指導 ○ あらゆる進路に対応が可能な教育課程 ○ 学校運営協議会の設置 ○ 単位制の導入 ○ 数学・英語において習熟度別少人数授業の展開 ○ 地域について探究する課題解決学習「じもと学Ⅰ・Ⅱ」の実施		
創立年月日	平成17年4月1日	
所在地	登別市青葉町42-1	
電話・FAX	TEL 85-8586 Fax 85-8585	
校長名	坪井 克彦	
教頭名	福田 敦	
生徒数	322名（令和5年5月1日現在）	
学級数	9学級	
職員数	34名	
敷地面積	50,353.94m ²	
スクール・ミッション	1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 2 地域唯一の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成 3 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじ的確に判断し、主体的に行動できる生徒の育成	
スクール・ポリシー（※右上に続く）	1 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） (1) 自己実現力→自己の将来像に夢や理想を持ち、その実現に向け自発的に努力する力 (2) 健全性→健全な心身を保ち、高めるために継続して努力する力 (3) 課題解決力→広い視野と旺盛な探究心を持ち、自ら課題を見つけ、課題解決する力 (4) 論理的思考力→様々なテーマや問題に対して論理的に意見を組み立て、表現する力 (5) 主体的行動力→自他の考えを考慮し、自分自身で考え、主体的に行動する力 (6) 協働性→社会の担い手としての責任感を持ち、ともに支え合って成し遂げようとする力 2 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） (1) 普通科単位制の特色を生かし、学力を系統的に積み上げる教育課程を編成する (2) 一人一人のキャリア形成を促すとともに、多様な進路目標に対応できる教育課程を編成する	学校沿革の略歴 【北海道登別高等学校】 昭和 23.10 北海道立室蘭高等学校（現室蘭栄高校）幌別分校定時制課程普通科として開校 27.11 北海道幌別高等学校として独立 36.4 町名変更に伴い北海道登別高等学校と改称 38.4 全日制課程普通科を設置し定時制課程と併置 40.3 道立移管 平成 16.4 定時制課程募集停止 17.4 全日制課程募集停止（登別南と統合のため） 19.3 閉校 【北海道登別南高等学校】 昭和 54.4 北海道登別南高等学校全日制課程普通科として開校（1学年2間口） 55.4 全日制課程普通科1学年3間口 56.4 全日制課程普通科1学年4間口 59.4 全日制課程普通科1学年6間口 平成 3.4 全日制課程普通科1学年5間口 4.4 教育課程に類型制を2学年より導入 8.4 全日制課程普通科1学年4間口 15. 教育課程の類型型を廃止しコース制のみ移行 17.3 閉校式挙行・閉校 【北海道登別青嶺高等学校】 平成 17.4 北海道登別青嶺高等学校全日制課程普通科として開校（登別南高校校舎にて開校） 17.4 開校式・入学式を挙行 全日制課程普通科1学年5間口 19.4 全日制課程普通科1学年4間口 令和 3.4 全日制課程普通科1年次3間口 単位制導入

北海道登別明日中等教育学校

		特色ある教育活動 ○本道で唯一の道立中等教育学校 ○6年一貫の教育課程の実施 ○国際理解教育、外国語教育の重視 ○多様な体験活動の促進 ○地域や北海道のよさを学ぶ学習活動の促進 ○異年齢生徒の交流の促進 ○保護者・地域と連携した教育活動の促進
創立年月日	平成19年4月1日	
所在地	登別市片倉町5丁目18-2	
電話・FAX	Tel 0143-85-0351 Fax 0143-85-0353	
校長名	小西 晃	
副校長	志鎌 正人	
教頭名	浅野 美香	
生徒数	444名	
学級数	12学級	
職員数	45名	
敷地面積	校舎 42,738.38m ² 寄宿舎 3,493.47m ²	
学校教育目標	学校・家庭・地域社会が連携し、中高一貫教育を行い、「高い知性」、「豊かな人間性」、「健康な心身」「郷土愛と国際性」を身に付けた本道の将来を担う人材の育成を目指す。	
学校経営方針・今年度の重点	【方針】 (1) 中等教育学校の特色を生かした「ここでしかできない教育」の推進 特色ある教育課程を編成・実施し、6年間を見越した計画的・系統的な教育活動を展開する。 (2) 計画的・系統的な教育活動を推進するための組織運営体制の確立 教育・教科の専門性に基づく、個々の創造性や持ち味を活かした、組織的・協働的な教育活動を展開する。 (3) 学力向上に資する教育活動の充実 学力、学習意欲、自己肯定感の向上を目指す組織的な教育活動の確立に向けて教職員のスキルを向上させる。 (4) 開かれた学校づくりの推進 ホームページにより本校の教育活動を継続的に発信し、地域の教育資源、外部人材を活用した教育活動を行う。 (5) 信頼される学校づくりの推進 評価結果を検証し、スクール・ポリシーに基づく魅力ある学校づくりに向けた改善策を検討する。 (6) 魅力ある職場環境の確立 教職員が同僚性を高め、学校としてのチームワークのよさを教育の質の向上につなげる。 【重点】 (1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実 (2) 生徒の多様化に対応した健康・安全教育や教育相談活動の充実 (3) 地域と保護者との連携を重視した教育活動の充実 (4) 国際理解・グローバル教育、外国語教育などを通し、外国語(英語)による思考力・判断力・表現力の育成 (5) 6年間を見越した計画的な進路指導の充実 (6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視	
	学校沿革の略歴 平成12年6月 ・北海道教育委員会が策定した「公立高等学校配置の基本指針と見直し」において、「生徒の学校選択の幅を広げる観点から教育長期総合計画の後期実施計画期間内において連携型の実践を踏まえ、高校の再編などを行う中でモデルとなる学校を設置できるよう検討する～」と明記 平成16年8月・校舎新築工事着工 平成18年4月 ・北海道登別明日(あけび)中等教育学校の開校に向け、開校準備事務室を登別高等学校内に設置 平成18年11月・校舎新築工事完成 平成19年4月・開校 平成19年4月・開校式並びに第1回入学式の挙行 平成21年10月・ユネスコスクールの加盟承認 平成22年3月・第1回卒業証書授与式の挙行 平成23年7月・北海道教育委員会「確かな学力を育む高校教育推進事業」実践研究推進校に指定(～平成24年度) 平成23年10月・第1回「明日の日」(教育研究成果発表会) 平成24年7月 ・「北海道グローバル人材育成プログラム」推進校に指定 平成25年6月 ・北海道教育委員会「北海道高等学校学力向上推進事業」ベータモデル協力校に指定(～平成27年度) ・同事業の土曜日授業調査研究校に指定(～平成26年度) 平成26年4月 ・文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校に指定(～平成30年度) 平成26年4月 ・文部科学省「土曜授業推進事業」指定校に指定 平成27年8月 ・北海道教育委員会「課題解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)推進事業協力校に指定 平成28年10月・10周年記念式典の挙行 平成30年4月 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業(～令和元年度) 平成31年3月・SGH最終成果報告会の開催 平成31年4月「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」指定校に指定(～令和3年度) 令和3年4月「スーパーグローバルハイスクールネットワーク」参加校に指定(～令和5年度)	

日本工学院北海道専門学校

		特色ある教育活動 企業との連携を重視し、実践的な教育を行っている。各学科において企業へのインターンシップや企業の協力のもと実践に則した演習を実施している。 また、地域への貢献のために学生委員会を中心としてボランティア支援を積極的に行っている。
創立年月日	昭和57年4月1日	研究主題
所在地	登別市札内町184-3	
電話・FAX	TEL 88-0888 Fax 88-0900	
校長名	福井 誠	
副校長名	引地 政 征	
生徒数	365名	
学級数	25学級	
職員数	29名	学校沿革の略歴 昭和 54.4 登別市長より学校法人日本電子工学院（当時）に対し専門学校開設の要請 56.9 専修学校の設置認可 57.4 日本工学院北海道専門学校第一回入学式 工業専門課程情報処理科、電気工学科、建築学科、情報工学科（現・文化・教養専門課程CGデザイナー科）等7学科を設置 59.4 工業専門課程にメカトロニクス科（現・自動車整備科）を設置 平成 3.9 創立10周年記念式典を挙げる 7.4 文部大臣から専門士の認定を受ける 9.4 学校法人名を片柳学園に変更 13.4 文化・教養専門課程に行政学科（現・公務員2年制学科）を設置 14.8 創立20周年記念式典を挙げる 19.4 医療専門課程に医療秘書科（現・商業実務専門課程医療事務科）を設置 27.4 文化・教養専門課程に公務員1年制学科を設置 29.4 商業実務専門課程にビジネス学科（現・ホテル科）を設置 31.4 福井誠が4代目校長に就任 令和 3.4 工業専門課程にITスペシャリスト科（4年制）設置
敷地面積	183,887m ²	
学校教育目標	○工業に関する専門の学理と技術を教育し、日進月歩の科学技術に即応する実践能力を備えた技術者の育成 ○新しい時代を先導しうる知識と理解力を兼ね備えた公共の仕事に担う人材の育成 ○福祉の時代を先導しうる知識と理解力を兼ね備えた医療福祉に担う人材の育成	
学校経営方針	【方針】 若者の持つ夢や希望を、技術という生きる力に育み豊かな未来創造に寄与するため、「若きつくりびと」の育成を目指す。 【重点】 ・インターネットを活用した教育ができるように環境を整備し、新しい授業方式への対応を目指す。 ・地域に根差した教育活動を行うため、小・中・高のキャリア教育へ貢献する ・外部との連携や評価を得る機会を増やし、学生がより多くの経験を積める環境を整える ・サテライトオフィスを活用した教育連携を行い、より実践的な教育を目指す。	

<<<社会教育施設>>>

市民会館

所在地 登別市富士町7丁目33番地1 (Tel 0143-88-1139)

構造 鉄筋コンクリート造2階建

昭和58年6月1日開館

面積 建築2,833㎡ 延床4,658.81㎡

施設 1階 大ホール、大会議室、
サークル活動室、木工室、和室、
教育委員会事務室 など

2階 中ホール、小会議室、視聴覚室、
児童室、調理室、婦人サークル室、
青少年センター、一般財団法人登
別市文化・スポーツ振興財団事務室など



開館時間 午前9時～午後10時

休館日 年末年始

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

<利用状況>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大ホール	17件	41件	46件
	1,564人	7,466人	6,449人
中ホール	106件	137件	191件
	4,165人	10,040人	10,674人
大会議室	179件	154件	197件
	6,121人	4,580人	5,618人
小会議室	126件	157件	228件
	873人	1,013人	1,329人
児童室	135件	135件	182件
	606人	618人	858人
和室	99件	40件	55件
	645人	252人	297人
サークル活動室	186件	245件	266件
	1,286人	1,441人	1,782人
木工室	87件	65件	90件
	531人	462人	698人
視聴覚室	206件	179件	251件
	2,377人	1,974人	2,488人
調理室	10件	17件	26件
	49人	135人	278人
婦人サークル室	70件	66件	103件
	518人	426人	766人
合計	1,221件	1,236件	1,635件
	18,735人	28,407人	31,237人

図書館

所在地 登別中央町5丁目21番地1 (Tel 0143-85-4324)

構造 鉄筋コンクリート造3階建 昭和47年5月開館

面積 建築346㎡ 延床1,025㎡

施設 1階 児童室、えほんのへや、事務室

2階 一般閲覧室、閉架庫、

3階 参考図書室、郷土資料室、閉架書庫、会議室

開館時間 平日 午前10時～午後6時

休館日 月曜日、祝日、毎月最終金曜日 年末年始

<利用状況>

区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
本館開館日数	274	251	251	228	276
移動図書館車巡回日数	224	206	205	183	228
蔵書冊数	163,043	163,781	164,994	162,549	156,962

<貸出冊数>

区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
本館	113,702	96,222	89,827	84,238	89,947
移動図書館	18,893	18,129	15,230	12,303	14,394
分館・配本所	49,725	41,509	31,823	34,447	40,360
団体貸出	9,944	10,643	8,915	9,283	9,741
合計	192,264	166,503	145,795	140,289	155,028

<図書館利用人数>

区分	3年度	4年度
本館	19,938	19,651
移動図書館車	5,502	6,409
アーニス分館	4,503	6,469
驚別配本所	5,062	6,371
登別配本所	744	1,031
合計	35,749	39,931

<年度別新規登録人数>

3年度	4年度
385	380
5	8
59	45
30	32
8	10
487	475

<年齢別利用人数>

区分	3年度	4年度
0～6歳	4,341	4,350
7～9歳	1,541	1,601
10～12歳	629	715
13～15歳	389	227
16～18歳	107	113
19～22歳	83	114
23～29歳	484	470
30～39歳	2,697	2,965
40～49歳	4,114	4,220
50～59歳	3,532	4,768
60～69歳	5,996	6,313
70歳以上	11,225	13,316
その他	86	79
団体	525	680
合計	35,749	39,931



登別市立図書館本館

登別市青少年会館

所在地 登別市中央町5丁目21番地12
 (Tel 0143-85-3107)
 構造 鉄筋コンクリート造2階建
 昭和44年5月24日
 面積 建築 602㎡ 延床 675㎡
 施設 1階 体育館、登別市文化協会事務室
 2階 研修室、和室
 開館時間 午前9時～午後10時
 休館日 年末年始



<利用人数>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大人個人	276人	165人	165人
児童生徒個人	485人	670人	415人
団体利用	15,947人	15,437人	17,881人
合計	16,708人	16,272人	18,461人
主な利用	バレーボール・ミニバレー・ラケットテニス・剣道・レクダンス・バドミントン		

登別市郷土資料館（文化伝承館）

所在地 登別市片倉町6丁目27番地2 (Tel 0143-88-1339)
 構造 鉄筋コンクリート造2階建
 昭和56年9月1日開館
 平成8年3月29日開館（文化伝承館）
 面積 建築 542㎡ 延床 675㎡
 施設 1階 展示室
 (アイヌ文化、昔の生活道具などの
 展示)
 準備室、伝承体験コーナー、
 事務室、収蔵庫など
 2階 展示室
 (片倉家ゆかりの展示)
 開館時間 4月～10月 午前10時～午後5時
 11月～3月 午前10時～午後4時
 休館日 月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、年末年始



<利用人数>

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大人	1,313人	1,369人	2,109人
小人	243人	415人	448人
合計	1,556人	1,784人	2,557人

ネイチャーセンター（ふおれすと鉱山）

所在地	登別市鉱山町8番地3 (Tel 0143-85-2569)	
構造	鉄筋コンクリート造1階建 平成14年4月25日開館	
面積	建築 1,477 m ² 延床 1,487 m ²	
施設	木工室、森の図書館、 自然情報展示、研修室、 食堂、ロビー、ネイチャーホール、 浴室、宿泊室（80人収容）	
開館時間	午前9時～午後5時30分	
休館日	月曜日、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌日休館、7～8月は休館日なし）	
指定管理者	NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	

<利用人数>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大人	2,880人	3,278人	4,152人
児童生徒	2,347人	2,809人	3,088人
幼児	849人	1,175人	1,288人
合計	6,076人	7,262人	8,528人

のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）

所在地	登別市登別温泉町123番地（Tel 0143-84-2069）	
構造	鉄筋コンクリート造3階建 平成19年6月1日開館	
面積	建築 990 m ² 、延床 2,563 m ²	
施設	1階 学習室、図書室、保管室、 体験学習室、収納展示室 など 2階 胆振教育研究所、教育資料室 研修室、展示室、談話室、調理室 3階 サークル活動室1～3	
開館時間	4月～10月 午前10時～午後5時 11月 午前10時～午後4時 貸館 午前9時～午後5時	
休館日	月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）、国民の祝日の翌日、12月～3月	

<利用人数>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
見学者	601人	1,385人	1,289人
利用者	264人	301人	580人
合計	865人	1,686人	1,869人

市民プール（らくあ）

所在地	登別市幸町1丁目5番地2 (Tel 0143-85-5588)	
構造	鉄筋コンクリート造一部木造2階建 平成16年6月1日 建替開館	
面積	建築 3,039 m ² 延床 3,500 m ²	
施設	1階 競泳用プール、多目的プール、 流水・歩行プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、事務室、会議室、 休憩室 など 2階 研修室、キッズコーナー	
開館時間	午前10時～午後9時	
休館日	第1・第3月曜日（祝日、休日にあたる月曜日は開館）及び年末年始	
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団	
<利用人数>		

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
幼児	1,384人	1,351人	1,619人
児童生徒	12,463人	10,223人	11,188人
一般	24,073人	19,747人	20,987人
高齢者	37,097人	32,302人	40,928人
事業参加	785人	1,771人	1,975人
合計	75,802人	65,394人	76,697人

総合体育館

所在地	登別市若山町2丁目26番地1 (Tel 0143-85-5552)	
構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造・ 鉄骨鉄筋コンクリート造3階建 昭和49年10月10日開館	
面積	建築 2,164.48 m ² 延床 2,817.79 m ²	
施設	1階 アリーナ、休憩室、事務室、 更衣室 2階 会議室、多目的ルーム 3階 観覧席	
開館時間	午前9時～午後9時	
休館日	年末年始	
指定管理者	一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団	

<利用人数>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
大人個人	4,654人	3,474人	4,816人
児童生徒個人	4,221人	3,796人	3,522人
団体利用	28,433人	31,668人	40,435人
合計	37,308人	38,938人	48,773人
主な利用	バドミントン・バスケットボール・卓球・バレーボール・多目的ルーム		

岡志別の森運動公園

所在地 登別市千歳町97番地7外
 (Tel 0143-88-2525)

開設 平成9年4月開園

面積 70,730 m²

施設 野球場、テニスコート、パークゴルフ場
 休憩所

利用期間 野球場 (5月1日～10月31日)
 テニスコート (4月10日～10月31日)
 パークゴルフ場 (5月1日～10月31日)

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用状況>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
野球場	923人	905人	2,227人
テニスコート	5,149人	5,327人	6,781人
パークゴルフ場	10,370人	7,880人	10,969人

川上公園 (Bゾーン)

所在地 登別市桜木町5丁目41番地1外
 (Tel 0143-88-2525 岡志別の森運動公園事務所)

開設 平成6年7月開設

面積 35,710 m²

施設 野球場

利用期間 5月1日～10月31日

指定管理者 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団



<利用状況>

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
野球場	1,700人	2,080人	3,059人

<<<学校給食センター>>>

(1) 学校給食事業

(令和5年5月1日現在)

安全・安心で栄養バランスがとれた給食を小・中学校や保育所に調理・配送します。

小学校 8校	1, 837人
中学校 5校	888人
北海道登別明日中等教育学校前期課程	236人
保育所 2所	113人



(2) 施設の概要

- ① 所在地 登別市千歳町3丁目1番地3
- ② 電話 0143-85-2723
- ③ FAX 0143-85-1479
- ④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~msc/>

(3) 学校給食の役割

本市の学校給食は、学校における教育活動の一環として、児童生徒の心身の健全な発達に寄与することを目標に、全校で完全給食を実施している。

〔学校給食の目標〕(学校給食法)

- 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること
- 日常生活における食事について、正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び共同の精神を養うこと。
- 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであるということについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

(4) 食に関する指導

子どもたちが健全な心と体を培い、生きる力を身につけていくためには「食」が基本となります。しかし、食生活の多様化が進む中で、肥満、偏った栄養摂取、朝食欠食など子どもたちの食生活の乱れが深刻化する問題となっています。

子どもたちに望ましい食習慣を身につけてもらうため、また、健康についての意識がもてるよう、学校と連携を図りながら、様々な学習機会において、「食に関する指導」を実践しています。

◎ 給食指導のねらい

- ① 楽しく（正しく）会食すること
- ② 健康によい食事の取り方
- ③ 食事と安全・衛生
- ④ 食事と文化
- ⑤ 勤労と感謝

(5) 給食対象者数の状況（令和5年5月1日現在）

対 象 者	人 数
小 学 校 児 童	1, 8 3 7 人
中 学 校 生 徒※	1, 0 2 4 人
教職員・保育所	4 3 4 人
合 計	3, 2 9 5 人

※ 登別明日中等教育学校前期課程の生徒を含む。

(6) 年間喫食数・給食費の状況

給 食 対 象 者	年 間 喫 食 数	給 食 費 年 額
小学校1年生・6年生	1 8 3 食	5 3, 4 3 6 円
小学校2～5年生	1 8 5 食	5 4, 0 0 0 円
小学校特別支援学級	1 8 0 食	5 2, 5 6 0 円
中学校1～2年生	1 8 5 食	6 5, 0 4 0 円
中学3年生	1 7 7 食	6 2, 3 0 4 円

(7) 給食内容

児 童 ・ 生 徒 ・ 教 職 員	主食：パン、米飯 牛乳 温食：麺類、スープ類、煮物、汁物 副食：煮魚、天ぷら、フライ、サラダ類 デザート類
-------------------	---

◎ 各種審議会委員等

1 登別市社会教育委員

(発足) 社会教育法第15条に基づき、昭和46年に「登別市社会教育委員に関する条例」を制定し、発足

(目的) ・社会教育に関して教育委員会に助言するため次の職務を行う。

(1) 社会教育に関する諸計画の立案

(2) 教育委員会からの諮問に応じ、これに対して意見を述べる。

(3) 前2項の職務のために必要な研究調査を行う。

・教育委員会の会議に出席して社会教育に関する意見を述べること。

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者から委嘱(15名以内)

2 登別市教育支援委員会

(発足) 昭和54年に「登別市就学指導委員会規則」を制定し、発足

(目的) 小中学校に就学する児童・生徒の心身の障がいの程度等の判断、教育相談及び就学指導について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

(委員) 医師、特別支援学級設置校校長、特別支援学級担任教諭、児童福祉関係者、学識経験者から委嘱(25名以内)

3 登別市学校給食センター運営委員会

(発足) 昭和41年に「登別市学校給食センター条例」を制定し、発足

(目的) 学校給食用物資の購入、献立及び調理方法、並びに給食費の徴収方法その他給食センターの運営について、教育委員会の諮問に応じ、調査及び審議し、その結果を答申する。

(委員) 教育関係者、学識経験者から委嘱(10名以内)

4 登別市図書館協議会

(発足) 図書館法第14条に基づき、昭和47年に「登別市立図書館条例」を制定し、発足

(目的) 図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。

(委員) 学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験のある者から委嘱(5名)

5 登別市スポーツ推進委員会

(発足) スポーツ基本法第32条に基づき、平成23年に「登別市スポーツ推進委員会設置条例」に改正し、名称変更を行った。

(目的) スポーツの振興に関する事項についての調査審議及び建議等を行う。

(委員) 学校教育関係、社会教育関係に深い関心・理解を持っているスポーツ関係団体、スポーツ経験者から委嘱(15名)

6 登別市文化財審議会

(発足) 文化財保護法の規定に基づき、平成2年に「登別市文化財保護条例」を制定し、発足

(目的) 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する専門的事項を調査審議し、これらの事項に関して建議する。

(委員) 学識経験者の中から委嘱(10名以内)

7 登別市青少年問題協議会

(発足) 地方青少年問題協議会法に基づき、昭和37年に「登別市青少年問題協議会設置条例」を制定し、発足

(目的) ・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき、必要な重要事項を調査審議する。

・青少年の指導、育成、保護及び矯正の関する総合的な施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図る。

・前項に関し、市長に対し意見を述べる。

(委員) 市議会議員、関係行政機関の職員及び学識経験者から任命(15名以内)

8 登別市重大事案対策委員会

(発足) いじめ防止対策推進法に基づき、平成29年に「登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例」を制定し、発足

(目的) 市立小・中学校においていじめに係る重大事態の対処及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止その他の教育委員会が必要と認める事項について調査審議する。

(委員) 教育、法律、精神保健、心理、人権擁護等に関する専門的知識及び経験を有する者から委嘱(5名以内)

◎ のぼりべつの文化財

(1) 国指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
天然記念物	登別原始林	登別温泉町	大正 13. 12. 9	北海道中帯南部の植物区系を代表する学術上貴重な天然林の保存を目的に指定された。

(2) 登別市指定文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	円空作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2 登別市指定文化財 第 1 号	寛文 6 年 (1666)、美濃国の僧、円空上人が道南各地を巡錫しながら鉦作りというナター丁で観音像を刻み、そのうちの 1 体が当時権現沢に祀られていました。明治 44 年 (1911) の山火事で一時行方不明となりましたが、現在は、地獄谷展望丘の一角に社を設けて安置されています。
	円空作聖観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2 登別市指定文化財 第 2 号	円空作観音像が明治 44 年の山火事で行方不明となったため、当時登別温泉に在住で郷土史家だった故石川修次氏が、昭和 32 年、円空上人の中期多作時代の観音像 1 体を愛知県名古屋市中川区の荒子観音寺から入手し、その後昭和 40 年に観音山聖光院に奉安された観音像です。
	高村東雲作観音像	登別温泉町	平成 5. 9. 2 登別市指定文化財 第 3 号	各像は故岩原菊次郎氏らを中心に登別温泉在住の人々が費用を募り、戦時中東京から栗山村に疎開中の三代目高村東雲に製作を依頼し、安置したものです。

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	日野愛憲の「明治2年以降片倉家北海道移住顛末」	片倉町	平成 5. 9. 2 登別市指定文化財 第4号	この著書は、日野愛憲(当時50歳)が、片倉家の入植した明治2年(1869)から24年間のできごとをまとめたものです。片倉主従が厳しい自然環境に立ち向かい、数々の苦難を克服した史実を伝える登別市の貴重な開拓記録です。
	黒澤家史料	片倉町	平成 10. 2. 10 登別市指定文化財 第7号	旧仙台藩白石城主片倉家の家臣、黒澤家に伝わる武家文書です。
	幌別村役場文書	片倉町	平成 31. 4. 26 登別市指定文化財 第9号	戸長役場設置前の数点を含め、明治13年(1880)開設の戸長役場の行政文書を引き継ぐとともに、幌別村役場内において作成又は受理され、一部を除き幌別村役場の文書保存規程により「永年保存文書」として管理保存されてきた文書96点。本市の歴史を明らかにする上で大変貴重な資料群です。
	片倉家主従開拓 記念碑	中央町 (刈田神社内)	令和 4. 3. 30 登別市指定文化財 第10号	片倉家の旧家臣団の移住から60年近く経った大正15年(1926)に、移住者の子孫が四散してしまい、父祖の奮闘努力が没却していくことを憂えた移住者の子孫らによって、刈田神社境内に建てられた顕彰碑。本市の歴史的歩みを多くの市民に伝えてきたという点において貴重な資料です。
	丈草の記	片倉町	令和 5. 2. 24 登別市指定文化財 第11号	明治15年(1882)5月に讃岐国那珂郡今津村(現香川県丸亀市今津町)から家族とともに北海道へ移住した宮武藤之助が、昭和24年(1949)に当時の生活を思い起こして綴った回想録。四国からの移住者の生活実態を明らかにする資料が非常に少ないなか、大変貴重な歴史資料です。
民俗文化財	幌別鉦山獅子舞	鉦山町	平成 5. 9. 2 登別市指定文化財 第5号	鉦山町で鉦山事業がはじまった明治39年(1906)から大正9年(1920)にかけて、宮城県出身者が郷里をしのんで行っていたものが取り入れられた獅子舞です。

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
記念物	登別化石林の炭化木(トドマツ)	片倉町	平成 29. 2. 1 登別市指定文化財 第 8 号	昭和 5 9 年 (1 9 8 4)、北海道縦貫自動車道工事の際、「胆振団体研究会」により発見されました。発見された炭化木は、約 4 3, 5 8 0 年前のクッタラ火山の噴火堆積物により形成されたものです。ウルム氷期中期の寒冷な気候の変遷の実態を明らかにし、北海道及び登別市の自然史とクッタラ火山の活動史を解明する上でも貴重な資料です。

※登別市指定文化財第 6 号については、平成 25 年 1 月に指定解除

(3) 指定以外の文化財

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
有形文化財	念仏鬼像	登別温泉町		毎年 8 月に行われる「登別地獄まつり」の主役である赤鬼立像 3. 5 m、青鬼立像 2. 2 m の像に守られている小さな社(鬼祠)の中に江戸時代から伝わるという「念仏鬼像」が安置されています。
民俗文化財	鷺別子ども獅子舞	鷺別町		昭和 5 0 年 1 2 月、鷺別神社の改築されたのを機に、宮城県遠田郡涌谷町で若いころ獅子舞をしていた草岡久男氏が愛好会を結成し発足したのが始まりです。
	熊舞	登別温泉町		数百年前、けもの道しかなかった登別温泉の湯沼には熊やキツネなどの動物たちが薬湯につかっており、先人がこの地に初めて足を踏み入れたとき山中で熊に出会い、その熊の道案内で地獄谷にたどりついたという伝説にもとづいて、昭和 5 6 年、当時低迷していた登別観光の活性化、湯への感謝と千客万来の祈願を目的として、登別観光協会の全面的な協力のもと、新しく創作した郷土芸能です。

種 別	名 称	所在地	指定年月日	摘 要
民俗文化財	北海自衛太鼓	緑町		昭和40年、地域との交流と隊員の士気高揚を図るために結成され、若さと力強さにあふれた自衛隊流にアレンジした打法は登別の名物として定着しています。
	幌別駒おどり	幌別町		開拓の力になった馬の活躍と、先祖の苦勞に感謝する気持ちを後世に伝えるため昭和38年創作された郷土芸能です。
	湯鬼神かぐら	登別温泉町		地獄谷から鬼が出たという伝説に基づき泉源である地獄谷のお湯に対する感謝、湯の街の繁栄と旅人の安全を祈願して舞う郷土芸能で、昭和49年、若者達が自ら創作した郷土芸能です。
	子宝もちつき舞い	登別温泉町		登別温泉町に湧く名湯「子宝湯」にちなんで、子宝安産・夫婦円満・家内安全を祈願して、昭和57年の「登別温泉湯まつり」から誕生した郷土芸能です。
	幌別鉦山溪龍太鼓	鉦山町		夏に鉦山町で行われる「溪流まつり」で演奏するため、鉦山町に居住する若者達が平成9年にグループが結成されました。現在は休止中。

(4) 記念物・史跡

名 称	所在地	摘 要
題目石	登別温泉町	明治4年(1871)に伊達妙栄寺の開山である日進上人が墨で自然石にお題目を書いたものであるといわれています。今では判読することはできませんが、水を注ぐとわずかに墨痕をうかがうことができます。
薬師如来	登別温泉町	文久元年(1871)、火薬の原料として地獄谷から硫黄を採掘していた南部藩栃内氏の家臣善四郎の職人がお堂の下から湧いている温泉で目を洗ったところ眼病が治ったことから、そのお礼として寄進した石碑が安置されているのが薬師如来です。以来、湯治客から目の湯として伝承されてきました。

名 称	所在地	摘 要
金成マツの碑	富浦町	金成マツは明治8年（1879）11月10日当時の幌別村に生まれました。明治26年にジョン・バチラーの奨めにより函館聖公会の伝道学校（愛隣学園）で洋風教育を受け、キリスト教の布教活動を行いました。晩年は、登別に住み、ユカラをローマ字で筆録しました。
知里幸恵の墓	富浦町	知里幸恵は明治36年（1903）6月8日当時の登別村で生まれ、6歳の時祖母モナシノウクとともに、旭川に住む金成マツのところに移り住んでいます。モナシノウクは金田一京助から「最大の叙事詩人」と絶賛されたユカラの語り部です。幸恵は19歳で亡くなり、金田一京助により東京の霊園に埋葬されていましたが、昭和50年に現在の富浦墓地、金成マツの碑の隣に改葬されました。
知里真志保をはぐくんだ地	登別本町	明治42年（1909）現在の登別本町で生まれ、アイヌ語を学問として整え、アイヌ文化研究の基礎を確立した言語学者です。また、「アイヌ神謡集」で有名な姉幸恵も育てたこの地は、水と森に深く包まれたカムイユカラ発祥の聖地といえます。
馬事訓練所跡	中登別町	第2次世界大戦中、陸軍により「登別馬事訓練所」（現ユートピア牧場付近）が設けられ、軍人・民間人に対し馬事の訓練を行ったところです。
カムイワッカ	中登別町	カムイワッカは、アイヌ語で「神の水」を意味します。北海道の名付け親である江戸時代の探検家松浦武四郎も、安政5年（1858）8月に登別を訪れた際、「カモイワッカ」へ立ち寄ったと記録しています。大正7年（1918）には登別駅から登別温泉を結ぶ軽便鉄道が開通し、カムイワッカに「神威若」停車場が設置され、蒸気機関車の給水所の役割も果たしました。カムイワッカからは、今も変わらず水が湧き出しています。
滝本金蔵人馬継立所の跡	登別本町	明治6年（1873）、札幌本道（現登別小学校の前の通り）で、自ら私財を投じ登別温泉への道路を整備、湯宿を開くなど登別温泉の開発に尽力した滝本金蔵が宿泊所を設け、人馬継立所として通送を行った場所です。
愛隣学校跡	幌別町	愛隣学校は、明治21年（1888）にアイヌの子供たちのために、幌別アイヌと英国聖公会宣教協会のジョン・バチラーによって設立された学校です。明治28年頃（1895）まで学校は続いており、その後、隣にある教会の日曜学校に吸収されてしまいますが、明治期のアイヌ自身による教育活動として大きな役割を果たしたと言えます。

名 称	所在地	摘 要
ジョン・バチェラー 家跡	青葉町	明治26年(1893)に札幌に転居するまでの間、幌別を中心としてキリスト教の伝導に従事しました。その間、ルイザ夫人と召使いパラピタ夫妻及びその養女キンが生活していた木造の邸宅があった跡地です。ここを拠点として、馬に乗り遠くは日高方面へ布教に行っていたといわれています。
片倉家家臣による鷺 別開拓発祥の地	美園町	「胆振国幌別郡全図」によると、片倉家家臣がこの地に移住を計画したのは戸数18戸、長屋1戸、開拓畑反数77反四畝歩と記されています。「幌別郡之内鷺別屋敷図」には江戸期の道路を中心に黒澤源一郎・桐軍治・榛沢蔵松・杉山与一郎らの屋敷図が記載されています。この地10万㎡は明治3年(1870)以降鷺別開拓の拠点になりました。
アフルルパル	登別本町	アフルルパルは、アイヌ語で「入る・道・口」の意味で、あの世の入口を指しています。一般的には横穴ですが、ここは珍しい竪穴です。アイヌ語学者 知里真志保、友人でアイヌ語地名研究者の山田秀三らが、昭和30年(1955)に真志保の父 高吉の案内で調査しました。穴は楕円形で、道路工事で一部破壊されていますが、現在でもその大きさを体感できます。金成マツが、この地にまつわるウエペケレ(昔話)を残しています。
江戸期の旧道「七曲 り坂」	富浦町	松浦武四郎は弘化2年(1845)以降蝦夷地をたびたび探検調査しましたが、東蝦夷日誌ホロベツ領に「坂口より九折を上る。十年前栈橋なりしが今は無く上り平地(小休所)下崖にて、下を臨めば白海岸を撃ち、西を臨めば白海岸を撃ち、西を眺めれば会所元(幌別)よりエトモ岬、内浦岳(駒ヶ岳)、その景恰も薩捶峠にて富峰(富士山)を見るが如し」とその景色を絶賛した所で、箱館奉行所役人や蝦夷警備の武士など多くの人々が通行した江戸期の旧道跡です。

(5) 記念碑

名 称	所在地	摘 要
東宮殿下大婚奉祝記 念碑	登別温泉町	東宮殿下(後の大正天皇)のご結婚を記念して、街の有志たちが湯澤神社境内に建立しました。
頌徳碑・功労碑	登別温泉町	登別温泉の開拓・発展に大きな功績を残した滝本金蔵・栗林五朔翁らを讃えた碑です。滝本金蔵翁は登別温泉開拓の祖として、江戸時代に来泉し明治時代に活躍し、また栗林五朔翁は大正時代に温泉経営の近代化に尽力し偉大な足跡を残しました。
野宿の碑	カルルス町	オロフレ荘前の川淵にあり、明治22年(1889)、日野久橋が伐採樹種調査のためにこの地を訪れ、カルルス温泉を発見した際に一夜を過ごした場所です。

名 称	所在地	摘 要
開湯二十五年記念碑	カルルス町	明治32年(1899)8月6日にカルルス温泉を開湯した日野久橋・市田重太郎の創業25年来の努力を讃え、その後のカルルス温泉発展を望んで建立されました。
功程碑	カルルス町	カルルス温泉開湯30年を記念して、開場当時の道路開削などの記録がこの石碑に記されています。
開祖日野久橋翁功績碑	カルルス町	昭和3年7月8日、日野久橋夫妻の金婚式の祝いとともに、カルルス温泉の開祖者として尽力した久橋の功績をたたえ、地域の有志たちによって昭和3年6月10日に建立されました。
滝本翁記念碑	登別温泉町	湯澤神社境内に建てられ、「瀧川湯本翁命」の石碑と併設されています。
知里真志保の碑	登別本町	真志保は生前「故郷をしのび、海に見える丘に住みたい」というのが口癖だったといわれ、これを知った室蘭中学校同窓生が中心となり、太平洋と生まれ育った登別川をのぞむ丘に碑を建立しました。現在は登別小学校脇に建っています。
明治天皇記念碑	富浦町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地で休憩したのを記念して建立されたものです。
魚霊碑	富浦町	魚族の霊を慰めるために富浦町の漁民たちが中心となって寄付を募り、富浦漁港の船巻き揚げ場に建立した碑です。
ダム龍神	川上町	奥川上部部落の住民たちが天地の恵みと土地の繁栄及び無災害を祈願して、西湖岸に守護神木塔を建立した碑です。
開拓記念碑	中央町	男爵片倉健吉をはじめ片倉家旧家臣で幌別に移住した人たちによって刈田神社境内に建立された碑です。
明治天皇御駐輦記念碑	中央町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建立された碑です。刈田神社境内。
奉祝大婚之碑(東宮殿下)	中央町	刈田神社境内に東宮殿下(後の大正天皇)の成婚式挙行を記念して建立された碑です。
堀孝太郎記念碑	中央町	堀孝太郎は明治22年(1889)から約20年間幌別小学校の校長を務め、謹厳な中にも慈愛にあふれた人柄で生徒にも尊敬され、登別の教育界に立派な足跡を残しました。
大正天皇御即位記念碑	中央町	大正天皇の即位を記念して建立された碑です。刈田神社境内。
開拓記念碑	鉦山町	幌別ダムの上流に蔭の沢鉦山跡があり、その上の平坦地に碑が立っています。
堀嘉国先生頌徳碑	鷺別町	堀嘉国は登別温泉小学校で7年、鷺別小学校で6年余り校長を務め、父孝太郎様に慈愛にあふれた人柄だったので生徒から大変尊敬され、子どもの非は自分がいたらないからだといって自分を厳しく戒めたといわれている。

名 称	所在地	摘 要
札内六拾年記念碑	札内町	札内地区の開拓60周年を記念して、現在の日本工学院北海道専門学校近くの道路沿いに建てられています。
明治天皇記念碑	鷺別町	明治天皇が北海道2回目の巡幸の時にこの地を視察したのを記念して建てられた碑です。

(6) 歌碑・句碑

名 称	所在地	摘 要
高浜虚子の句碑	カルルス町 登別温泉町	札幌市で開催の全道ホトトギス俳句大会に出席する途中、昭和23年6月15日、高浜虚子・高浜利尾らが登別温泉に宿泊し、翌16日にカルルス温泉に吟行した後、登別温泉で虚子の歓迎句会が開かれたときに詠んだ句です。 地獄谷の舟見山遊歩道の中にも虚子の句があり、大正8年6月に旭川で開かれたホトトギス北海道全国大会のため来道した際の作品です。
吉田元利の歌碑	カルルス町	札幌の吉田元利が、東宮殿下（後の大正天皇）大婚の夏にカルルスの鈴木旅館の前にある楓の木が二本交差している（夫婦楓）さまを見て詠んだ歌です。
栗林加寿子の歌碑	登別温泉町	地獄谷の舟見山遊歩道及び登別ガーデンには、登別温泉発展の功労者である栗林五朔夫人加寿子の歌碑が4基あります。
臼田垂浪の句碑	登別温泉町	臼田垂浪は長野県に生まれ、大正4年に俳句誌「石楠」を創刊しました。昭和11年8月に来道の際、登別温泉に立ち寄って詠んだ句を弟子が碑を建立しました。
香葉句碑	登別温泉町	碑文は明治神宮の建設を記念して、と前書きがあり左側に細字の掘り込みが見られるものの、判別することはできません。

(7) 埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	所在地	時 代	摘 要
鷺別1遺跡	鷺別町	縄文前期 ～晩期	縄文時代前期の円筒下層式、中期の円筒上層式及び余市式、後期の入江式、晩期の亀ヶ岡式土器が出土した遺跡です。貝塚を主体とする遺跡で、ハマグリを中心にホッキやホタテの貝殻も発見されており、登別の考古学調査はここを最初とします。
鷺別2遺跡	美園町	縄文中期	鷺別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、土器片が発見されています。
鷺別3遺跡	鷺別町	アイヌ文化期	現在の透禅寺付近にあたり、かつて宅地造成工事の際、人骨・鉄刀・漆器片が発見され、アイヌ文化期の墳墓があったと考えられています。

遺跡名	所在地	時代	摘 要
富岸神社遺跡	富岸町	縄文中期 ～晩期	富岸川左岸の河岸段丘、緑陽中学校東側に形成され、縄文後期の入江式土器が出土しています。
富岸小学校遺跡	富岸町	縄文中期	標高約20mの富岸川右岸河岸段丘に形成された遺跡。縄文中期とみなされる遺物が出土しています。
富岸遺跡	富岸町	縄文早期 ～後期	富岸川左岸の河岸段丘から丘陵部の標高30～35mに形成された遺跡で、昭和55年の発掘調査では円筒下層式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式・堂林式などの土器5,510点が出土しています。縄文時代各期の遺物が出土していますが、中期・後期が主体の遺跡です。この遺跡と川上B遺跡からは魚の骨を土器の表面に回転させた「魚骨回転文土器」が出土しています。また、発見された「落とし穴」3基のうち1基は土層断面から縄文中期～後期にあたと推定されています。
亀田公園遺跡	富岸町	縄文中期 ～後期	標高47m～62mの南東向き緩斜面上に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道の建設に伴い昭和61年2,355㎡にわたり発掘調査が実施されました。縄文時代中期の集落跡で土器片・石器など総数731点の出土遺物や住居跡・囲いのない地床・炉跡などの遺構28基が発見されています。
川上A遺跡	桜木町	縄文後期 ～続縄文	幌別川の河岸に形成された遺跡で、続縄文期の恵山式土器が出土しています。土偶が1点付近から出土しています。
川上B遺跡	青葉町	縄文早期 ～後期	北海道縦貫自動車道登別・室蘭インターチェンジ付近のヤンケシ川右岸の河岸段丘上標高15～25mに形成された大規模な遺跡で、昭和55年から60年にかけて発掘調査が実施されました。登別では初の旧石器や中茶路式・円筒上層式・北筒式・余市式・入江式など縄文早期～後期にかけての土器約8万点が出土し、直径12mを越える大型住居跡など150の縄文中期末葉～後期前葉の住居跡や墓などの遺構が発見されています。雨の多い登別にあつて、縄文時代にも豪雨による土砂崩れが少なくとも2回は起きていたことがこの発掘調査で推定されています。この遺跡からは「北海道式石冠」と称されるすり石や「石刃鎌」というシベリア方面から伝わり登別が南限といわれる石器「耳飾り」などのアクセサリーも出土しています。 また、出土した獣骨や魚骨からエゾシカ・サメ・サケ・ウグイなどが当時の食料源として捕獲の対象になったことがわかっています。
来馬チャシ跡	片倉町	アイヌ文化期	幌別ダムの建設工事の際に破壊され、現存していません。内耳土器・チャシ時代成立期頃の遺跡といわれています。
片倉遺跡	片倉町	縄文中期	幌別川左岸の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式土器が出土しています。幌別ダムのダムサイト建設中に大規模に破壊されたと考えられ、包蔵地と思われる部分は土取りされています。

遺跡名	所在地	時代	摘 要
来馬遺跡	片倉町	縄文中期	範囲1, 400㎡の遺跡ですが、詳細については分かっていません。
幌別遺跡	中央町	続縄文	来馬川の左岸に形成された遺跡で、恵山式の土器が出土しています。
山木1遺跡	常盤町		範囲2, 500㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
山木2遺跡	常盤町	縄文前期 ～中期	範囲2, 800㎡の遺跡ですが、詳細は分かっていません。
千歳1遺跡	千歳町	縄文前期 ～中期	岡志別川の河岸段丘に形成された遺跡で、円筒上層式・下層式土器や北海道式石冠などが出土しています。昭和56年、千歳6遺跡と平行して登別市教育委員会が調査を実施しました。
千歳2遺跡	千歳町	縄文早期 ～後期	札内台地の裾野に形成され、北海道式石冠、石鏃などが出土しています。また、北海道縦貫自動車道工事の作業所建設時には、縄文時代前期の竪穴式住居跡も発見されています。
千歳3遺跡	千歳町	続縄文	岡志別川右岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、恵山式土器が出土しています。
千歳4遺跡	千歳町	縄文早期 ～後期	札内台地の裾野、2つの小川にはさまれた丘陵の南向き斜面から低地にかけて広がる遺跡で、道道の改良工事に伴い昭和55年に発掘調査が実施されました。縄文中期の住居跡の床面から円筒上層式・北筒式・静狩式などこの時期の土器に混じって、東北地方北部で出土している縄文中期の最花式に似た土器がまとまって見つかり、貴重な研究資料となりました。
千歳5遺跡	千歳町	縄文前期 ～後期	岡志別川上流域左岸、札内台地の裾野に形成された遺跡で、昭和57・59両年度発掘調査が行われました。住居跡や北筒式・余市式・円筒上層式・煉瓦台、青竜刀形（中国の青竜刀に似た縄文時代の磨製石器で東北地方から渡島半島にかけて分布、刀としてではなく祭祀などに使われたと思われる）などの土器・石器とともに、「オロシガネ状石器」が出土しています。この「オロシガネ状石器」は毒草をすりつぶして狩猟に使った、という説や、表面が擦り減っていないので単に祭祀の道具として使われたという説などがありますが詳しくは分かっていません。また、石斧の原石や破片がたくさん出土していることからここで石斧を制作していたことも確認されています。縄文中期から後期までの遺物が多量に発見されたほか、縄文早期～後期の遺物も発見されており、定住的な生活があったことがわかります。

遺跡名	所在地	時代	摘 要
千歳6遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別の森運動公園の北東の丘陵上に形成され、昭和56年度に発掘調査が実施されました。大・小の住居跡を含む竪穴34基や石囲炉1基などの遺構をはじめ、ノダップⅡ式土器、余市式土器が出土しています。縄文晩期を除く各期の遺物を出土していますが大きくわけて早期と中期後半～後期前半の二つの時期を中心にわずかずつ地点を替えながら集落を形成し生活が営まれていたと考えられています。
千歳7遺跡	千歳町	縄文中期	札内台地の裾野のごく狭い範囲に形成された遺跡で、円筒上層式土器や石器が出土しています。
トイチセコツ遺跡	登別本町	縄文中期	北海道縦貫自動車道工事の際に発見された「登別化石林」に近い丘陵頂上部にあります。
中登別遺跡	中登別町	縄文中期	ポンアヨロ川右岸の台地に形成された遺跡で、北海道縦貫自動車道登別東インター付近にあります。
若山町遺跡	若山町	縄文前期～中期	富岸川左岸の丘陵の先端に形成された遺跡。試掘調査により、縄文時代前・中期の土器や石器が発見されています。
アフルルパル遺跡	登別本町	アイヌ文化期	蘭法華岬から続く平坦な海岸段丘上に形成されています。平面の形は30m×22mの楕円形を呈するすり鉢状のくぼ地で、底に向かって階段状になっています。知里真志保・山田秀三によってこの地に伝わる話が紹介されています。アイヌ文化の送りを考える上で興味深い遺構といえます。
千歳8遺跡	千歳町	縄文中期	岡志別川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。縄文土器のほかにも石器も発見されています。
富岸川右岸遺跡	富岸町	縄文中期～後期	富岸川右岸の緩やかな斜面に形成された遺跡です。平成19年の発掘調査では、竪穴式住居跡が4軒、シカを捕獲するための落とし穴が379基発見されました。西胆振だけでなく、全道的にも非常に密度の濃い落とし穴の数であり、縄文時代の狩猟活動を考える上で貴重なデータを残しています。
キウシト遺跡	富岸町	縄文早期・中期・後期、続縄文	富岸川左岸の標高20～30mの海に向かって伸びる長尾根上に位置しています。遺跡の性格としては、住居跡や獣骨が混じる炉跡の検出や多くの土器や礫石器の出土から、集落跡であった可能性が高いと考えられます。しかし、狩猟用の落とし穴が発見されていることから、時期的に猟場として使用されていたことも想定されます。
ウキシマニシト遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川にはさまれた細尾根の標高40m地点に位置します。造成によりほとんど削平されていますが、土器が発見されています。

遺跡名	所在地	時代	摘 要
富岸川左岸遺跡	富岸町	縄文中～後期	富岸川左岸の標高54～64mの山の中腹に位置します。土器や石器、石製のアクセサリーが発見されています。富岸川右岸と関係がある集落跡と考えられます。
シンノシケウンオカシペツ遺跡	千歳町	縄文早～後期、擦文	岡志別の支流であるシンノシケウンオカシペツ川の微高地に位置します。市内で数少ない擦文時代の遺跡です。
シンケプシニナルカ遺跡	千歳町	縄文早～中期	岡志別川とその支流であるシンノシケウンオカシペツ川にはさまれた段丘の緩やかな斜面に位置します。 広い範囲で確認されており、標高の高い地点にまで広がる可能性があります。
ウキシマニシト2遺跡	常盤町	縄文早期	来馬川と岡志別川に挟まれた尾根上の標高30～36mに位置します。縄文時代早期の土器、黒曜石製の石鏃などが発見されています。
ニナルカ遺跡	千歳町	縄文後期	来馬川と岡志別川に挟まれた尾根状の台地の先端、標高13～14mに位置している。縄文時代後期の土器や黒曜石の剥片が出土している。
リフルカ遺跡	登別港町	縄文中期	太平洋へ突き出る標高58～60mの舌状台地の平坦面に位置している。縄文時代中期の土器や貝やウニ片が確認されており、遺跡の範囲は広がる可能性がある。

登別市小中学校・高等学校統廃合校の沿革と校歌

1. 幌別鉱山小中学校

明治40年 5月 幌別尋常小学校附属幌別鉱山教授所として開校
 大正 4年 4月 幌別鉱山尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 幌別鉱山小学校と改称
 昭和28年 4月 幌別鉱山中中学校を設置し、小学校に併置（幌別鉱山小中学校と改称）
 昭和33年12月 新校舎落成
 昭和49年 3月 閉校

校歌	作詞 作曲 安達保
一、四方めぐらす山々は 北斗の星とささやきて 大きく伸びよとのぞみいる 共にこたえんその希望 きたえて進むこの庭に 鉱山 鉱山 わが鉱山校	
二、星のひとみのまたたきは 幌別川の影宿し 久遠のしあわせねがっている 共に励まん人の道 学びて歩むこの庭に 鉱山 鉱山 わが鉱山校 （昭和三八、三制定）	

2. カルルス温泉小学校

大正12年 4月 登別温泉尋常小学校カルルス特別教授所として開校
 昭和12年12月 カルルス温泉尋常小学校と改称
 昭和22年 4月 カルルス小学校と改称
 昭和48年 6月 創立50周年記念式典
 昭和57年 3月 閉校

校歌	作詞 作曲 柳沼牧羊 福田耕二
一、みどりのしずく ぎんの水 もみじのしずく きんの水 小鳥も風も いつもきて ちとせの川は 流れてる きれいな町のカルルスの みんなの温泉小学校	
二、ちぎれてとぶは 白い雲 ふんわりうくは あかね雲 小鳥も風も いつもきて オロフレ岳は そびえてる ひらけて古い カルルスの みんなの温泉小学校	
三、げんきな声は 男の子 あかるい声は 女の子 小鳥も風も いつもきて まなぶたのしさ あふれてる ゆめの大きい カルルスの みんなの温泉小学校 （昭和四八・一一制定）	

3. 札内小中学校

明治33年 5月 幌別尋常小学校札内簡易教育所として開設
 大正 2年10月 児童の激減で同教育所閉校
 大正 5年 4月 幌別尋常小学校附属札内教育所として再開
 昭和15年 4月 札内尋小小学校として独立
 昭和24年11月 幌別中学校札内分校として設立認可、札内小学校に併置
 昭和29年 4月 札内中学校として独立し、札内小中学校に改称
 平成10年 3月 閉校

校歌	
作詞 柳沼牧羊	一、山が呼ぶ 山が呼ぶ ポントコ山のひかる雲 仲良くこぞって手を上げて 登ろう 希望の峰めざし みんなの学校 札内校 わが母校
作曲 間島 篤	二、丘が呼ぶ 丘が呼ぶ 札内原野のかおる風 仲よくこぞって肩組んで 創ろう 理想のさとめざし みんなの学校 札内校 わが母校
	三、海が呼ぶ 海が呼ぶ 太平洋の白いなみ 仲よくこぞって腕ためて こごう平野の岸めざし みんなの学校 札内校 わが母校 (昭和四一、一制定)

4. 登別温泉中学校

昭和22年 5月 設立認可(3学級編成)登別温泉小学校に併置
 7月 開校となり、9月より正常授業
 昭和24年12月 登別温泉小学校隣地に木造校舎完成
 昭和53年12月 登別温泉町123番地に新校舎完成(現在、文化交流館「カント・レラ」)
 昭和54年 2月 開校30周年記念式典
 昭和58年 2月 愛鳥保護モデル校に指定される。
 平成 4年 6月 北海道知事より「愛鳥モデル校」として指定を受ける。
 平成10年10月 開校50周年記念式典
 平成16年 3月 閉校

校歌	
作詞 石森延男	一、美わしき雲立ちのぼれ 日和山 仰ぐわれらの ひとみにも 高き理想は かがやけり まことの世界 学びつつ きょうも進まん まっしぐらに
作曲 久本成夫	二、風そよぐ桜が丘の 静けさは 思うわれらの 友情と 自由奉仕の 精神を 尊き行為 身に付けて あすも進まん とともに
	三、名にしおう いで湯の町と わがふるさとを 幸多く 自然の恵み ゆたかなり 力あふるる このからだ いよよ育てん すこやかに (昭和二九、七制定)

5. 登別温泉小学校

明治33年 6月 登別温泉簡易教育所を開設
 明治37年 5月 登別尋常小学校付属湯の滝教育所開設
 大正 4年 4月 湯の滝尋常小学校と改称
 大正 7年 7月 新校舍完成し、登別温泉尋常小学校と改称
 昭和32年10月 新校舍完成。創立50周年記念式典
 昭和53年10月 創立70周年記念式典
 平成18年11月 創立100周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	作詞 西條八十 作曲 明本京静
一、わが日本の 誇りなる 清き温泉の 登別 みどりの峰に かこまれて 学ぶわれらは 幸あるこども	
二、明るき心 強き意志 恩師の教え まもりつつ 学びの業に 体育に 励むわれらは 雄々しきこども	
三、窓べにあおぐ 日和山 のぼる煙の ひとすじに 祖国の栄え めざしつつ 進むわれらは 希望のこども	
四、世界の平和 きずかんと 伸びてたくまし 日本の 未来を担う 者はたれ われぞわれぞ 光栄あるこども (昭和一八、二制定) (昭和二三、一改作)	

6. 登別高校

昭和23年10月 北海道室蘭高等学校（現室蘭栄高等学校）幌別分校として開校
 昭和27年11月 幌別高等学校（定時制）として独立
 昭和36年 4月 登別高等学校（全日制）として開校、定時制を併置
 昭和40年 4月 道立移管し北海道登別高等学校と改称
 昭和57年10月 全日制20周年・定時制30周年記念式典
 平成19年 3月 閉校

校歌	作詞 伊馬春部 作曲 石丸 寛
一、シノピリカ カムイネモシリ 永久なる流れ 幌別の ほとりに佇ちて 思うかな この地拓きし 祖祖の 意志の理想は なお生きて 若きわれらの 胸にあり かくてこそ 香るなれ 鈴蘭の原野も共に われら行く手に 幸う如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
二、シノピリカ カムイネモシリ 来馬オロフレ 幌別の 嶺嶺仰ぎ 謳うかな 雪に翠に また花に 姿かえつつ はぐくむは 若きわれらの命なり かくてこそ さやかなれ もろもろの鳥のこえごえ われら行く手 ことほぐ如く ああ登別 登別高等学校 わが母校	
三、シノピリカ カムイネモシリ 涯渺々の 太平洋 窓をのぞみて 誓うかな 産業地帯 その要 都市の未来を 創るもの 若きわれらの力なり かくてこそ 壮んなれ エネルギー 大地に満ちて われら行く手 導く如く ああ登別 登別高等学校 わが母校 力 若さの力 われら若人 登別 幸あれ 栄えあれ 光あれ (昭和四〇、一〇制定)	

室蘭常盤学校幌別分校（現幌別小学校） 設立請願書

北海道における小学校の初期教育は開拓の歴史とその変遷をともした。開拓者が入植すると、神社を建てて学校を開設するのが最も普通の順序であった。最初は正式な学校教育としてではなく、共立教育所という郷学校を開いて子弟の教育を行った。幌別は士族移住地で、概して教養あるものが多く、精神主義を主としたから、とりわけ教育には積極的であった。幌別地区に入植した開拓者は、年を追って学齢児童が増加し、小学校設置が急がれ、次のような願書が明治十四年に出された。

幌別郡幌別村仮小学校設立ニ付御補助之儀願

教育之儀ニ付テハ毎回御達ノ趣モ有之、本郡ニ於テモ小学校ヲ設ケ教授支度ハ年来ノ素願ニテ其ノ方法等協議仕候ヘドモ、何分ノ貧弱之一寒村其ノ資金ノ出ル目途不相立、稍々資産アルモノ札幌及室蘭港ニ寄留致シ学校へ通学候ヘドモ其ノ他ハ皆教育ノ何物タルヲ弁ゼズ、此節ニ至リ旧土人ヲ含メテ四十余名ノ学令児童モ有之、無際限此姿ニテ歳月徒ニ過ル時ハ独リ教育ノ趣意ニ戻ルノミナラズ、全郡ノ児童一丁字ヲ解スル能ハズ、普通ノ交際ヲモナス能ハザル段ニテ、父兄ノ義務モ不得歎息ニ堪ヘズ、今般一同評議寄付金募集百貳拾余円ヲ得、幌別村へ室蘭常盤学校ノ分校ヲ取立テ、常盤学校ニ級以上ノ生徒ヲ幌別へ交番派出シ教授ヲ受度入費概算候ヘバ学校ニ充ツベキ家屋ノ修繕、書籍器材ノ購入費其ノ他日々ノ諸経費ハ寄付金並ニ授業料ヲ以テ支弁可仕候ヘドモ、教員ノ食費ニ充ツベキ四円ノ金ハ毎月不足ヲ生ジ、折角寄付金モ集纏候際此不足金ノタメ興学志願水泡ニ属シ候ハ実ニ遺憾之至リニ奉存候間格別之御詮議ヲ以テ相当御補助下賜人民ノ宿願相達教育之道ニ進之候様被成下度、常盤学校教員安田貞謹へモ協議ノ上維持法調書相添此段私共総代ヲ以奉願候也

幌別郡総代人学校世話役

西 東 勇 吾
日 野 久 橘

明治十四年四月

開拓権大書記官 鈴木大亮殿

前書之通願出候ニ付奥印之上進達候也

願之趣聞届候事

但当分ノ内一カ年補助金三十六円ノ割、開業ノ日ヨリ可下度候条受取方常盤学校補助金ノ例ニ倣ヒ会計局へ可承合事

明治十四年五月十一日

幌別郡各村戸長 本 沢 直 養

この請願により明治十四年六月十四日に今の幌別小学校が公立常盤小学校幌別分校として創立される。翌年の八月、今の鷺別小学校が公立常盤小学校鷺別分校として創立。同年十月、幌別分校が幌別小学校として独立するに伴い、幌別小学校鷺別分校となる。明治十九年、鷺別分校は戸数減少で廃校となり、同二十三年に再開される。
(昭和四十二年四月十五日発刊の「登別町史」より抜粋)

※上の願書の学校世話役というのは、明治5年の学制に基づき住民から選ばれた役で、学校の新設・就学の勧誘をその任務とした。
※明治5年の1円は今のお金に換算すると4万5千円に相当した。

令和5年度 (令和4年度実績)

登別の教育
(資料編)

登別市教育委員会

目 次

I 総務グループ	1
II 学校教育グループ	2
III 社会教育グループ	11
IV 図書館	16
V 市内小学校一覧	18
VI 市内中学校一覧	18
VII 社会教育施設一覧	19

I 総務グループ

(1) 小学校校舎等改修事業費 2,251万3千円

児童などが安心して快適な学校生活を送ることが出来るよう、若草小学校・幌別西小学校屋内運動場の照明について省エネルギー効果の高いLED照明への改修のほか、老朽化している幌別小学校校舎の予防改修工事の実施設計を行った。

(2) 中学校校舎等改修事業費 3,542万3千円

生徒などが安心して快適な学校生活を送ることが出来るよう、幌別中学校・緑陽中学校屋内運動場の照明について省エネルギー効果の高いLED照明への改修のほか、老朽化している幌別中学校校舎の煙突用断熱材の改修を行った。

(3) 幌別小学校プール除却事業費 1,170万4千円

令和7年4月に予定している幌別小学校と幌別東小学校の統合を見据え、幌別小学校プール跡地に新たな児童館施設の建設・整備が進められることから、プールの除却を行った。

(4) 旧登別東町教職員住宅除却事業費 1,384万9千円

環境改善を図るため、既に供用を廃止した旧登別東町教職員住宅の除却を行った。

Ⅱ 学校教育グループ

(1) いじめ・不登校等対策経費 6万9千円

- ・教育相談・いじめ相談…専門相談員を4人配置し、電話や来室による相談を受けました。
(月～金曜日の9時～17時)
- ・いじめ・不登校等対策会議…校長会や教頭会の代表、小中学校教諭、教育委員会などで構成される同会議を年6回開催しました。

【学校訪問や実態調査の実施】

- ・保護者向け広報誌『手をつなぐ親と子』の発行…小中学校の家庭を対象に発行。
- ・登別市いじめ・不登校等対策会議…年6回開催
- ・生徒指導担当者連絡会議…年4回開催
- ・一人1台端末を活用した児童生徒の相談窓口の実施
- ・「鬼っ子フォーラム」の開催…市内小中学校及び高等学校の代表者が「みんなが通いたくなる学校づくり」をテーマに、自校の取組紹介や議論を行いました。

(2) スクールカウンセラー活用事業費 0千円

小中学校におけるいじめや不登校などの問題行動について、臨床心理士などの専門家4人を学校に派遣し、児童生徒等の相談に対応しカウンセリング体制の充実を図りました。
配置校(拠点方式) 幌別中学校、鷺別中学校、緑陽中学校、西陵中学校、登別中学校

(3) 心の教室相談員活動経費 0千円

生徒たちの不安やストレスなどを和らげ、心のゆとりを持てるよう心の教室相談員を各中学校に1人ずつ配置し、友人関係や進路、親子関係、登校拒否などについて生徒の相談に応じました。

配置校 幌別中学校、西陵中学校、鷺別中学校、登別中学校

(4) スクールソーシャルワーカー活用事業費 0千円

不登校など生徒指導上の問題解決に向けた校内体制の確立を図るため、教育委員会に2人のスクールソーシャルワーカーを配置し、学校、家庭、関係機関の訪問、及び児童生徒との面談を重ね、生活環境の調整や、児童生徒が抱える問題の解決に向け、支援を行いました。また、支援を必要とする保護者がスクールソーシャルワーカーと繋がれるように、啓発リーフレットを作成し周知しました。

(5) 児童生徒健康診断等経費 1,425万8千円

市内小中学校の児童生徒並びに新入学児童の健康管理のために健康診断を行いました。

(6) 学校医等表彰経費 4万8千円

長年にわたり当市市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師として、児童・生徒等の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献したものに対し、その功績を称えました。

(7) 中学校体育連盟助成金 140万円

中学校の体育を振興し、スポーツを通して生徒の健康増進や生徒間交流を図るため、各種大会を主催する中学校体育連盟に助成金を交付しました。

(8) 外国青年招致経費 1,708万4千円

生きた英語を指導する外国語指導助手（ALT）4人を活用し、英語を使ったコミュニケーション能力の育成や地域における国際交流の推進を図りました。

(9) 特色ある学校づくり推進経費 267万9千円

- ・ **総合的な学習活動の研究推進**…自由な学習環境の中で学ぶ総合学習の推進を図りました。
- ・ **生活科の実施**…児童の健やかな成長を育むため、生き物の飼育や学校菜園を通して、命の尊さや自然に親しむ心の育成を図りました。

(10) 特別活動推進経費 239万3千円

児童会、生徒会やクラブ活動、部活動などを通して、児童生徒による自主的・実践的な活動を助長しました。

(11) 自然体験学習推進経費 57万4千円

児童生徒が宿泊研修などの自然体験学習を行い、学習を通して児童生徒の自主性や協調性を育みました。

(12) 小中学校情報教育推進事業費 2,674万円

情報通信機器を小中学校に配置し、授業や公務等において積極的に活用することで、情報教育の推進及び校務の効率化を図りました。

(13) コミュニティスクール活動支援事業 35万2千円

今日の学校が抱える様々な課題を解決するために、市内小中学校が設置したコミュニティスクールの活動を支援することで、保護者・地域住民の意見が学校運営に反映される「地域とともにある学校づくり」の推進を図りました。

(14) 児童生徒遠距離通学費補助金 78万8千円

バスで通学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付しました。

(15) スクールバス・スクールタクシー運行経費 1,326万9千円

児童生徒の通学の安全を確保するため、札内町から幌別小学校と幌別中学校へ及び美園町の一部地域から若草小学校へスクールタクシーを、カルルス・上登別・登別温泉・中登別地区から登別小学校へスクールバスを運行しました。

(16) 特別支援教育振興費 13万円

心身に障がいのある児童生徒の能力と個性を伸ばし、将来における社会人としての自立と社会参加を促すため、特別支援教育指導内容の研究と実践を図りました。

(17) 特別支援教育就学奨励費 237万7千円

特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助しました。

就学奨励費の支給内容（令和4年度・年額、児童生徒一人あたり）（単位：円）

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1年	25,555	28,990	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費		5,820	11,370	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費。学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
修学旅行費	限度額	限度額 10,790	限度額 28,860	小学校又は中学校でそれぞれ1回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		26,280	1・2年 32,520 3年 31,152	学校給食に要する経費
校外活動費（宿泊）	限度額	限度額 1,845	限度額 3,105	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小5・中2）
校外活動費（宿泊無）	限度額	限度額 800	限度額 1,155	学校行事としての校外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費		実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）

就学奨励費の状況（過去5ケ年の推移）

（単位：人・千円）

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	実施人員	40	40	38	37	38
	決 算 額	1,360	1,370	1,313	1,271	1,405
中学校	実施人員	17	25	17	13	16
	決 算 額	937	835	1,013	674	972
計	実施人員	57	65	55	50	54
	決 算 額	2,297	2,205	2,326	1,945	2,377

(18) 特別支援教育推進経費 165万2千円

心身に障がいのある児童生徒の教育的ニーズを踏まえて、学習に必要な備品・物品等を購入しました。

(19) 言語障害通級指導教室運営経費 14万7千円

言語治療を必要とする幼児・児童を対象に、ことばの教室を開設し、幼児部・小学部の入級判定や保護者との教育相談、言語指導等を行った。

通級指導校設置状況（令和4年5月1日現在）（単位：人）

区 分	障がい 区 分	児童数	学 年 別 内 訳						幼児部 の児童	職 員 数
			1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	言 語	28	4	2	12	4	2	4	17	小学2 幼児2
鷺別小学校	言 語	17	3	4	5	4	1	0	14	小学2 幼児2

(20) 教育研究会運営事業補助金 32万6千円

職務遂行上、必要な専門知識の向上を図るため、教職員自ら教育のあり方を研究している登別市教育研究会の運営を支援しました。

(21) 教育実践研究奨励等経費 20万7千円

市内小・中学校の教育レベルを高めるため、実践奨励校ごとに研究主題を定め、その成果を公開研究会で発表するとともに、研究成果をまとめた冊子を作成しました。

(22) 学校図書システム広域化事業 25万6千円

「定住自立圏形成協定に基づく連携事業」として、学校図書システムを共同利用し、システム運用の効率化・安定化及び運用時のセキュリティ強化を図りました。

(23) 英検チャレンジ事業 41 万円

小学校中学年が英語に対する意欲を保ちながら高学年からの外国語へつなげることを目的に小学校 4 年生を対象に英検 Jr. 学校版ブロンズテストを実施したとともに、グローバルに活躍する人材の育成を推進することを目的に、英検 3 級を受験する登別市立中学校生徒に対し、検定料の半額を補助しました。

(24) 学校図書館司書配置事業費 8 万 7 千円

各小学校に学校図書館司書を配置し、児童が利用しやすい学校図書館を実現するための環境整備を図るとともに、多様な読書活動の企画を行い、学校図書館の機能向上及び児童の読書活動の定着を推進しました。

(25) 要保護・準要保護就学援助費 5,301 万 8 千円

小・中学生が学用品費や給食費などの心配をすることなく義務教育が受けられるよう、児童・生徒の保護者に必要な援助を行いました。

(令和 4 年度・年額)

区分		小学校	中学校	支給経費の内容
入学準備金	1 年	54,060	60,000	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費	1 年	11,630	22,730	各教科及び特別活動に必要とされる学用品（実験、学習材料費を含む。）及び通学のための通常必要とする上ばき、雨ぐつなどの通学用品の経費
	2 年 ～ 6 年	13,900	25,000	
修学旅行費		実費額		小学校又は中学校でそれぞれ 1 回参加する修学旅行費（対象経費内）
学校給食費		1・6 年 53,436 2～5 年 54,000	1・2 年 65,040 3 年 62,304	学校給食に要する経費
区分		小学校		中学校
体育実技用具費		現物支給		保健体育の授業の実施に必要な体育実技用具（スキー小 1・4）
校外活動費（宿泊）		限度額 3,690	限度額 6,210	学校行事として宿泊校外活動に参加する場合の経費（小 5・中 2）
校外活動費（宿泊無）		限度額 1,600	限度額 2,310	学校行事としての郊外活動（遠足など）に参加するための経費
通学費		実費額		最も経済的な通常の経路と方法によって通学する場合の交通費（片道の通学距離

			が小学校4km以上、中学校6km以上)
医療費	学校病治療に要した経費 (社会保険等の給付額を 控除した額)		就学援助を受ける児童・生徒が、伝染病又は学習に支障を生ずるおそれのある疾病(学校病)の治療に要する費用 学校病～トラコーマ、結膜炎、白せん、疥せん、膿痂疹、中耳炎、慢性副鼻腔炎、アデノイド、う歯、及び寄生虫病(虫卵保有含む)
P T A会費	限度額 3,450	限度額 4,260	学校に納入するP T A会費
クラブ活動費 (中学校のみ)		限度額 4,800	学校に納入するクラブ活動費
生徒会費 (中学校のみ)		限度額 2,000	学校に納入する生徒会費
卒業アルバム代等	限度額 11,000	限度額 8,800	卒業アルバム代等の購入に要する費用
オンライン学習通信費	限度額 14,000		家庭学習用としてタブレット端末を持ち帰る場合に、委員会が貸し出すWi-Fiルーターの通信費

就学援助の状況(過去5ヶ年の推移)

(単位:人・千円)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学 校	認定人 員	425	430	391	373	360
	支給人 員	397	402	370	348	335
	決 算 額	30,551	30,255	28,662	28,572	26,732
中学 校	認定人 員	257	246	244	238	221
	支給人 員	241	227	230	231	221
	決 算 額	30,000	29,020	26,929	29,978	26,287
計	実施人 員	682	676	635	611	581
	支給人 員	638	629	600	580	546
	決 算 額	60,551	59,275	55,591	58,550	53,019

※ 認定人員は、年度末の認定人員数(準要保護+要保護)

※ 支給人員は、当該年度の実支給人員数(準要保護+要保護修学旅行参加者)

(26) 姉妹都市小中学校交流事業

市内の小・中学生が、姉妹都市である宮城県白石市・神奈川県海老名市の小・中学生と学校間交流を行い、互いのまちの歴史を学び交流を深めてきました。

また、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としていましたが、令和4年度より事業を再開しております。

※ 予算はその都度、総務費から補助金方式で対応

(27) 教育支援委員会 112万8千円

登別市では、専門家の意見を聞くなどして、適切な就学指導を行うことができるよう、医師・学識経験者・教育職員・児童福祉施設の職員からなる教育支援委員会を設置し、心身の障がいの種類・程度等に関する調査・審議を行いました。

特別支援学級設置状況（小学校）（令和4年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	児童数	学 年 別 内 訳						職員数	介助員数
				1	2	3	4	5	6		
幌別小学校	知 的	1	2		1	1				2	0
	自閉情緒	1	2		1				1		
幌別西小学校	知 的	1	7	2	1	1	2		1	4	1
	自閉情緒	1	8			2		2	4		
	肢 体	1	1		1						
幌別東小学校	知 的	1	1						1	2	0
	自閉情緒	1	1			1					
青葉小学校	知 的	1	2		1			1		2	1
	自閉情緒	1	4			1		1	2		
鷺別小学校	知 的	1	3		1			1	1	2	1
	自閉情緒	1	1			1					
若草小学校	知 的	1	4						4	4	2
	自閉情緒	2	11	2	1	1	6	1			
登別小学校	知 的	1	4		1	1	1	1		2	0
	自閉情緒	1	7	2		2	2	1			
富岸小学校	知 的	1	7		1		1	5		4	1
	自閉情緒	2	9	2		4			3		
合 計	知 的	9	30	2	6	3	4	8	7	22	6
	自閉情緒	9	43	6	2	12	8	5	10		
	肢 体	1	1		1						

特別支援学級設置状況（中学校）（令和4年5月1日現在）

	障がい 区 分	学級数	生徒数	学年別内訳			職員数	介助員数
				1	2	3		
幌別中学校	知的	1	3		1	2	3	0
	自閉情緒	1	2	1		1		
西陵中学校	知的	1	1	1			3	0
	自閉情緒	1	2	1		1		
鷺別中学校	知的	1	2		2		3	1
	自閉情緒	1	4	1	1	2		
登別中学校	知的	1	4	2	1	1	3	0
	自閉情緒	1	1			1		
緑陽中学校	知的	1	1	1			3	2
	自閉情緒	1	4	3		1		
合 計	知的	5	11	4	4	3	15	3
	自閉情緒	5	13	6	1	6		

障がい区分別児童生徒数 （令和4年5月1日現在）（単位：人）

区 分	児童生徒数	小 学 校	中 学 校
知 的	41	30	11
自閉・情緒	56	43	13
肢体不自由	1	1	0
合 計	98	74	24

(28) 新型コロナウイルス対策等学校教育活動経費 1,455万5千円

小中学校の教育活動再開に際し、密閉・密集・密接を回避し、児童生徒・教職員等の新型コロナウイルス感染症対策に必要となる消毒用品・換気用品や、児童生徒の学びを保証するためのICT機器や教材等の購入を行いました。

(29) いじめ重大事案対策委員会経費 0千円

教育、心理、人権擁護等の専門的知識及び経験を有する方などから4人を選任し、登別市重大事案対策委員会委員を委嘱しています。

【事業実績】

- ・ 委嘱期間：令和3年6月1日～令和5年5月31日（1人）
令和2年6月1日～令和5年5月31日（3人）
第1回当該委員会の開催日～調査事項に関する調査審議が終了した日（1人）
- ・ 重大事案発生件数：0件

(30) 小学校体育授業支援事業 302万5千円

市内小学校の体育授業にスポーツ指導員3名を派遣し、球技や器械運動、スキー授業における実技指導や休み時間における運動を実施し、指導体制の充実を図りました。

(31) 統合型校務支援システム導入事業 624万4千円

校務支援システムを導入し、教職員が校務で作成する書類や資料を統合管理・運用することにより、手書きによる転記や確認作業の削減、打ち合わせ時間の短縮、児童生徒の欠席情報の共有など、教職員の事務の負担軽減を図りました。

Ⅲ 社会教育グループ

(1) 放課後子ども教室推進事業費 327万2千円

子育て環境の整備を図るため、放課後に子どもたちが安全・安心して過ごせる活動拠点（居場所）をつくり、地域の方々の協力を得て、様々な体験活動や交流活動などの取組を推進しました。

(2) ネイチャーセンター運営管理経費 4,319万8千円

NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶを指定管理者として、宿泊型の自然体験学習施設「登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉾山』」の運営管理を委託し、自然を活用した様々な体験活動を推進しました。

(3) 市民生涯学習推進講座経費 27万3千円

・**登別ときめき大学**…社会、経済、自然、歴史、文化など、多分野にわたる知識を学ぶ場を提供するとともに、まちづくりを担う人材を育成するため「登別ときめき大学」を開校しました。

令和4年度の学生数は63人です。

・**家庭教育学級**…市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者を対象に1学級を開設し、交流を図りながら、子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会を6回開催しました

・**市民マイプラン講座**…市内の団体が、自主的に行う学習会に対し講師を派遣し、市民の学習意欲を喚起することで生涯学習の推進を図りました。（1団体年度1回）

(4) 教育施設運営管理委託料（市民会館・総合体育館）

6,442万5千円

市民の健全な心身の育成を図るため、教育施設（市民会館・総合体育館）の運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことのできる環境を整えました。

(5) PTA連合会助成金 13万1千円

子どもたちの豊かな人間性を育むため、市内の小中学校及び高等学校のPTAで構成されるPTA連合会に対し、その活動に要する経費の一部を助成しました。

(6) 地域学校協働本部事業 213万9千円

地域教育力の向上を図るため、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、地域の特色を活かした地域学校協働事業を実施しました。

(7) 青少年育成指導経費 45万9千円

青少年センターを運営し、青少年非行や犯罪被害等の未然防止を図り、青少年が健やかに育つ環境を構築しました。

(8) 二十歳のつどい経費 20万7千円

「二十歳」の節目を祝い励ますとともに、自分に責任をもつことのできる成人としての意識の向上を図るため、登別市二十歳のつどい実行委員会の主催により二十歳のつどいを開催しました。

(9) 少年の主張大会経費 2万9千円

中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていることなどについて発表を行う少年の主張大会を開催しました。

(10) 子ども会活動振興助成金 47万3千円

子どもたちの「生きる力」と健全な心身の育成を図るため、子どもたちの健全育成のために活動する登別市子ども会育成連絡協議会に対して、その活動に要する経費の一部を助成しました。

(11) 西いぶり定住自立圏文化事業負担金 28万4千円

西いぶり定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）で実行委員会を組織し、令和4年度は伊達市にて、劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」の公演を実施しました。

(12) 児童・生徒文化振興助成金 62万8千円

保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校に通う市内に居住する児童及び生徒又は市内の学校等に通う児童及び生徒が文化活動で全道や全国、国際大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と、児童生徒の文化の振興を図りました。

(13) 文化振興助成金 80万円

地域に根ざした文化振興活動を行う登別市文化協会を支援することにより、市民が文化に親しむことのできるまちづくりの推進を図りました。

令和4年度加盟団体数 29団体

(14) 登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金 1,143万3千円

市民に質の高い文化やスポーツの場を提供するため、文化やスポーツ活動の振興を図る一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に対し、その運営に要する経費を補助しました。

(15) 登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金 490万円

文化振興及びスポーツ推進を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が行う、文化振興事業やスポーツ振興事業などの実施に要する経費の一部を補助しました。

(16) 郷土資料館運営管理経費 203万7千円

郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的に、郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示しました。

また、常設展示の一部（アイヌ文化・温泉コーナー等）のリニューアルや、小中学生の受入等を行いました。

(17) 郷土資料館耐震診断事業 374万円

郷土に関する資料を市民に供する施設である郷土資料館の長寿命化等に向けた検討を進めるため、コンクリート強度試験・鉄筋調査等を実施し、耐震診断判定を行いました。

(18) 文化財保護経費 22万円5千円

郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを養うため、様々な事業を実施するとともに、市指定文化財の指定を行い、文化財の普及啓発や活用を図りました。

(19) 文化伝承館運営管理経費 27万円

郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図るため、郷土資料館ボランティアの協力を得て学習会等を開催しました。

(20) のぼりべつ文化交流館運営管理経費 277万6千円

埋蔵文化財に接する機会を設けることにより、郷土に対する理解を深めるとともに、作品展示の場を設けることで市民の文化活動を推進しました。

(21) アイヌ文化振興経費 108万6千円

本市のアイヌ文化の振興並びにアイヌの人々の伝統等の市民に対する普及・啓発を図るため、一部アイヌ政策推進交付金を活用し、次の事業を実施しました。

- ・アイヌ文化講座

- ・アイヌ文化振興事業

 - アイヌ文様の刺繍が施されたタペストリーを製作し、観光交流センターに設置

- ・アイヌ民族文化祭補助金

(22) スポーツ協会助成金 65万円2千円

市民の健全なスポーツ活動の普及び発展を図るため、登別市スポーツ協会の活動に要する経費の一部を助成しました。

令和4年度加盟団体数 15団体

(23) 生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費 25万3千円

生涯スポーツの振興と健康増進や体力向上を図るため、関係団体とともに市民ラジオ体操会や市民スポーツ・健康フェスティバル等のスポーツイベントを実施しました。

(24) スポーツ少年団育成助成金 35万5千円

子どもたちの体力づくり及びスポーツ技術の向上を図るため、登別市スポーツ少年団本部の活動に要する経費の一部を助成しました。

令和4年度加盟単位団体数 15団体

(25) 児童生徒スポーツ振興助成金 213万2千円

保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校に通う市内に居住する児童及び生徒又は市内の学校等に通う児童及び生徒がスポーツ活動で全道や全国、国際大会に参加する場合に要する経費の一部を助成し、父母等の経費負担の軽減と児童生徒のスポーツ活動の推進を図りました。

(26) スポーツ推進委員会経費 47万5千円

体育・スポーツの振興を図るため、スポーツ行事への参画や軽スポーツなどの普及活動を行うスポーツ推進委員の活動を支援しました。

(27) 6市町スポーツ交流会事業 14万4千円

小学生のスポーツ交流を推進することにより、児童の健全育成を図るため、西いぶり定住自立圏（登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）の子どもたちを対象としたスポーツ大会の開催を支援しました（会場：室蘭市入江運動公園陸上競技場）。

(28) 学校開放事業費 3万1千円

地域におけるスポーツ活動を促進し、市民の健康・体力づくりの増進を図るため、市内小・中学校等の屋内運動場を市民へ開放しました。

開放する小学校（8校）

開放する中学校（3校）

開放期間 4月～2月

(29) 青少年会館運営管理経費 709万7千円

青少年の健全な育成等を図るため、青少年会館の運営管理を（公社）登別市シルバー人材センターに委託し、レクリエーション活動等を推進しました。

青少年会館名	住 所	電話番号
登別市青少年会館	中央町5丁目21番地12	85-3107

(30) 市民プール運営管理経費 7,581万8千円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、市民プールの運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、施設管理のほか、各種水泳教室・運動教室などを実施しました。

(31) 岡志別の森運動公園等運営管理経費 1,705万5千円

市民の健康増進と余暇活動の充実を図るため、岡志別の森運動公園及び川上公園（Bゾーン）の運営管理を一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に指定管理者として委託し、施設管理等を行ったほか、市民が安全・安心に施設を利用できるよう設備の改修等を実施しました。

(32) 放課後運動教室実施経費 43万6千円

子どもたちと地域の方々の健康増進と運動能力の向上を図るため、NPO法人おにスポに委託し、市内小学校の放課後時間を利用した運動教室を開催しました。

(33) 市民会館整備事業費 896万5千円

市民が引き続き安全・安心に文化活動を行うことができる環境の整備を図るため、登別市教育施設等個別施設計画に基づき、市民会館の地下タンクライニング工事や屋外給油配管更新修繕などを実施しました。

(34) 地域運動部活動推進事業 46万3千円

持続可能な部活動と学校の働き方改革を推進するため、スポーツ庁における実践研究（委託事業）を活用し、幌別中学校バレーボール部の休日における活動を登別市バレーボール協会会員が指導にあたる地域運動部活動として実施しました。

IV 図書館

(1) 図書館運営管理経費 1,021万9千円

図書館資料の整備と市民の求める資料の提供に努めるとともに、すべての市民を対象にした読書推進事業を行いました。

・主な事業・・・じどうしつだより・ブックリストの発行、おはなし会の開催、ロビー展示、団体貸出・施設搬送の実施、など。

(2) 図書館ネットワークサービス広域化事業費 206万円4千円

定住自立圏の連携事業として、登別・室蘭・伊達の3市の図書館情報システムや図書資料等を一体で運用・利用しました。

(3) アーニス分館運営管理経費 623万6千円

図書館分館を運営し、高齢者を対象とした大活字本の充実、雑誌資料の拡充、インターネットを活用したデジタル資料・データベースの提供を行いました。

(4) ブックスタート・ライブラリースタート事業費 60万3千円

・ブックスタート・・・4か月児健診時に絵本2冊と絵本リストやアドバイス集、コットンバッグを配布しました。

・ライブラリースタート・・・3歳児健診対象世帯に当該事業を説明したチラシを送付し、後日、来館された際に施設のサービスや事業、利用方法等の紹介と併せて本1冊を提供しました。

(5) 施設の概要

① 所在地 登別市中央町5丁目21番地1

② 電話 0143-85-4324

③ FAX 0143-85-4325

④ <http://www.noboribetsu.ed.jp/~iinkai/library/index.html>

⑤ 開館時間 10:00～18:00

⑥ 休館日 月曜日、国民の休日（月曜日の場合は翌日）、年末年始、
図書整理日（月の最終金曜日）、特別整理期間（年間7日以内）

(6) 分館・配本所

① アーニス分館

所在地 登別市中央町4丁目11番地
登別中央ショッピングセンター『アーニス』内

電話 0143-81-2182

② 鷺別配本所

所在地 登別市鷺別町3丁目3番地4
鷺別コミュニティセンター内

電話 0143-86-8823

③ 登別配本所

所在地 登別市登別港町1丁目4番地9
登別市観光交流センター『ヌプル』内

電話 0143-83-1131
(土日祝日) 0143-50-6602

V 市内小学校一覧

令和5年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	児童数	通 学 区 域
幌別小学校 明治14年6月14日開校	中央町 6-19-1	85-2521	13	239	中央町、常盤町、千歳町、 来馬町、札内町(381番地を除く)
幌別西小学校 昭和27年6月1日開校	片倉町 5-13	85-2364	15	276	富士町、新川町、片倉町、柏 木町、川上町、鉦山町
登別小学校 明治25年8月10日開校	登別本町 3-25-2	83-1014	8	133	登別温泉町、上登別町、カルス町、登 別本町、登別東町、登別港町、富浦 町、札内町381番地、中登別町
鷺別小学校 明治23年4月1日開校	鷺別町 4-36-21	86-7011	12	221	鷺別町、栄町1丁目・2丁目
富岸小学校 明治29年5月1日開校	富岸町 2-17-4	86-6303	15	363	新生町、富岸町、若山町3・4丁目、 栄町3・4丁目、大和町2丁目
幌別東小学校 昭和45年4月1日開校	幌別町 8-16-1	85-3532	6	55	幌別町、幸町、新栄町
若草小学校 昭和46年4月1日開校	若草町 1-1-2	86-7513	14	299	美園町、若草町、上鷺別町
青葉小学校 昭和52年4月1日開校	青葉町 3-3	85-1477	14	252	緑町、桜木町、青葉町、大和町1 丁目、若山町1・2丁目

VI 市内中学校一覧

令和5年5月1日現在

学 校 名	所在地	電話	学級数	生徒数	通 学 区 域
幌別中学校 昭和22年5月1日開校	千歳町 3-1-3	85-3111	8	148	幌別小学校、幌別東小学校 の通学区域
鷺別中学校 昭和22年5月1日開校	鷺別町 4-36-6	86-7950	11	272	鷺別小学校、若草小学校の 通学区域
登別中学校 昭和22年5月1日開校	登別本町 1-1-1	83-1029	5	59	登別小学校の通学区域
西陵中学校 昭和49年4月1日開校	片倉町 5-12-1	85-5041	6	116	幌別西小学校の通学区域
緑陽中学校 昭和58年4月1日開校	富岸町 1-11-1	85-5409	11	293	青葉小学校、富岸小学校の 通学区域

VII 社会教育施設一覧

施設名称	所在地	内 容	指定管理者
市民会館 昭和 58 年 6 月開館	富士町 7 丁目 33 番地 1	大ホール、中ホール、大会議室、小会議室、和室、サークル活動室、木工室、視聴覚室、調理室、婦人サークル活動室、児童室、展示ホール	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
郷土資料館(文化伝承館) 昭和 56 年 9 月開館 (平成 8 年 3 月開館)	片倉町 6 丁目 27 番地 2	展示室、体験学習室	
登別市民プール 昭和 50 年 2 月開館 平成 16 年 6 月建替開館	幸町 1 丁目 5 番地 2	公認競泳 25m プール、流水・歩行プール、多目的プール、リラクゼーションプール、トレーニングルーム、研修室、会議室、キッズルーム、休憩室、ギャラリー、ロッカールーム、シャワールーム、身障者更衣室	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
ネイチャーセンター ふおれすと鉾山 平成 14 年 4 月開館	鉾山町 8 番地 3	自然情報展示、森の図書館、食堂、木工室、宿泊室、研修室、ロビー、ネイチャーホール、浴室	NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
のぼりべつ文化交流館 カント・レラ 平成 19 年 6 月開館	登別温泉町 123 番地 1	情報スペース、学習室、保管室、体験学習室、収納展示室、準備室、図書室、研修室、展示室、調理室、談話室、サークル活動室	
総合体育館 昭和 49 年 10 月開館	若山町 2 丁目 26 番地 1	競技場、多目的ルーム、会議室、更衣室	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団
登別市青少年会館 昭和 44 年 5 月開館	中央町 5 丁目 21 番地 12	体育館、研修室、和室	
岡志別の森運動公園 平成 9 年 4 月開園	千歳町 97 番地外	野球場、テニスコート、パークゴルフ場、休憩所	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団 ※令和 4 年 4 月～
川上公園 (Bゾーン) 平成 6 年 7 月開設	桜木町 5 丁目 41 番地 1 外	野球場	(一財) 登別市文化・スポーツ振興財団 ※令和 4 年 4 月～